



選ばれるソリューションパートナーへ Global & Innovative

JUKIは1938年の創業以来「ものづくり」を社業の中心とし、技術の創造と進化を続けながら新しい価値を生み出す努力を続けてきました。そして今、「21世紀を生き抜くグローバルでイノベティブ(革新的)な“モノコト”づくり企業」を長期ビジョンとして掲げ、成長戦略と事業改革を強力に進めています。

「感動」と「安心」をお届けできる企業として、世界各国・各地域のお客様から“選ばれるソリューションパートナー”であり続けるとともに、SDGs経営の実践により社会から信頼され必要とされる企業を目指してまいります。



代表取締役会長 CEO
清原 晃

代表取締役社長 COO
内梨 晋介

企業理念

- JUKIは、ここに集い、人々のしあわせを実現し、社会に貢献する
- JUKIは、技術を創造し、進化させ、新しい価値を生み出す

経営基本方針

- 総合品質経営を推進する
- イノベティブ(革新的)で活気のある人と組織をつくる
- 国際社会に適合する経営を行う

コーポレートスローガン

Mind & Technology

企業行動規範

JUKIは企業理念を実現するため、ここに「企業行動規範」を制定します。

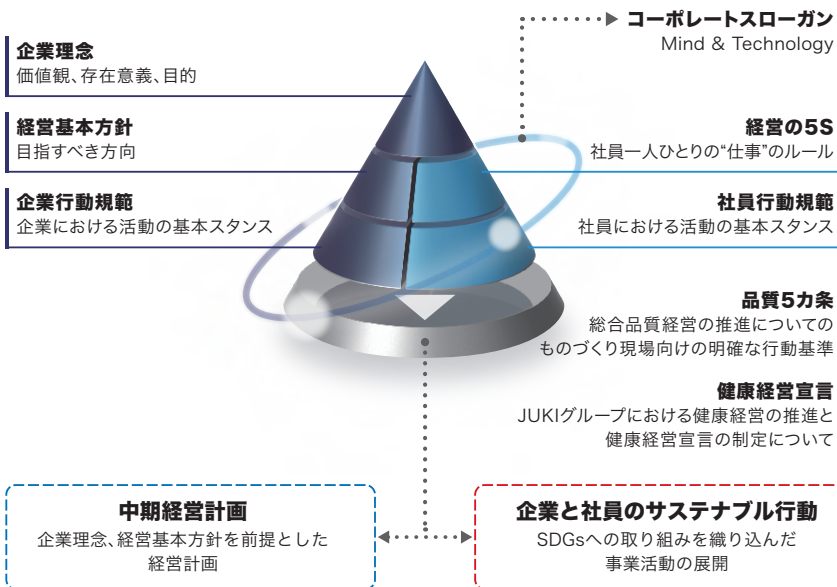
JUKIはこの行動規範に則り、全ての法律、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、社会的良識をもって行動します。

JUKIは公正な競争を通じ会社の利益を追求するのみならず、顧客、株主、取引先、社員にとってはもちろんのこと、広く社会にとっても、存在価値のある企業を目指します。

万一、「企業行動規範」に反するような事態が発生したときには、経営トップは、断固として責任ある対応をします。

※企業行動規範1～8の具体的な内容の掲載は省略しています。

JUKIグループ企業理念体系図



CONTENTS

JUKIとは

● JUKIの思い	2
● 企業理念	3
● JUKI製品を使ってつくられるもの	4
● JUKIの企業価値創造フロー(ビジネスモデル)	6
● 社長インタビュー	8

JUKIの事業

● 事業領域	14
縫製機器&システム事業	
● 工業用ミシン事業	16
● 家庭用ミシン事業	20
産業機器&システム事業	
● 産業装置事業	22
● グループ事業	28
● カスタマービジネス	32
● お客様紹介	34

JUKIの価値創造

● 技術開発力	36
● 生産力	40

JUKIのSDGs

● JUKIのSDGs	42
● 会長メッセージ(SDGs管掌)	43
● SDGsの概念	44
● リスクと機会	46
● JUKIのSDGsの取り組み	48

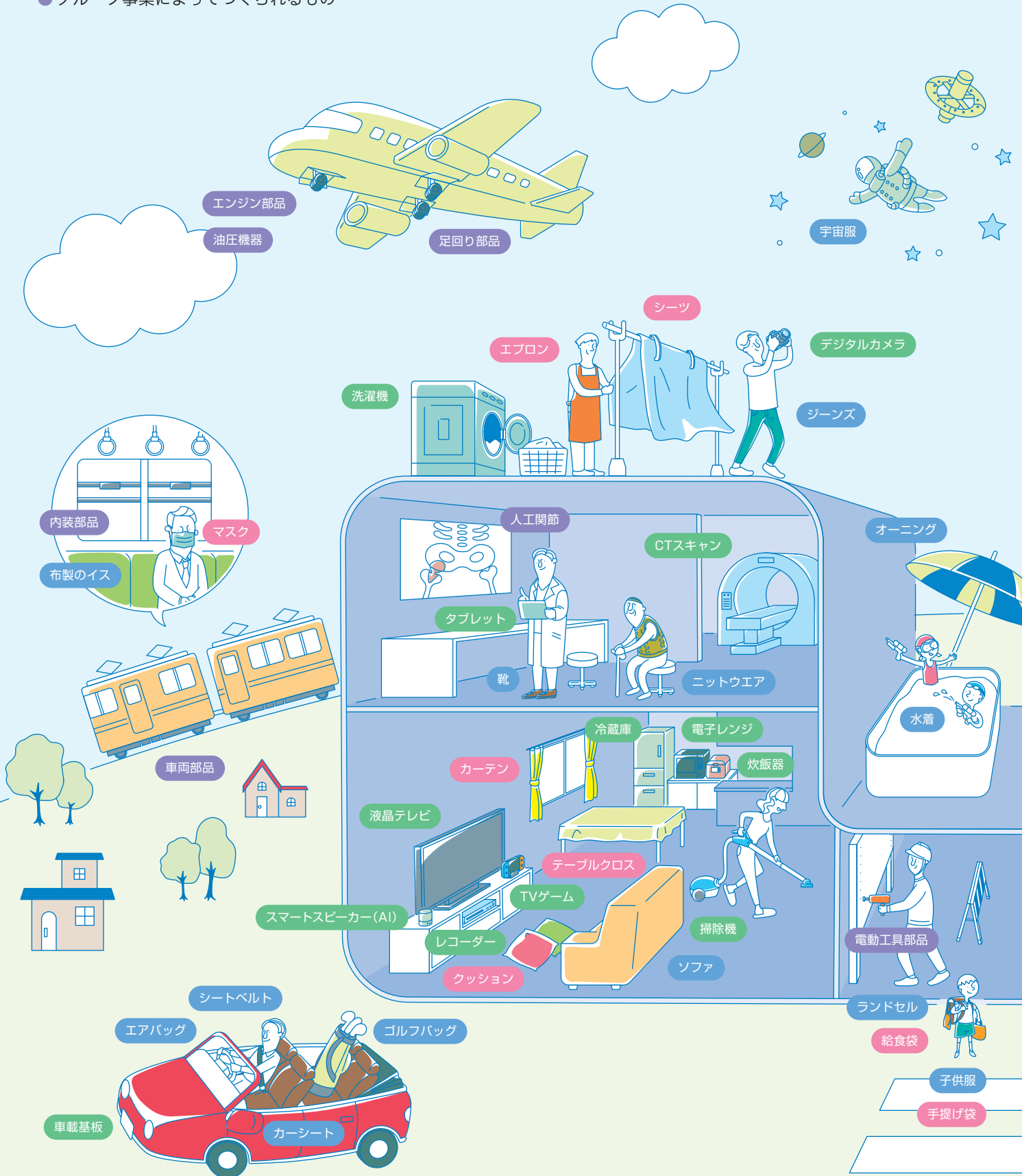
データセクション

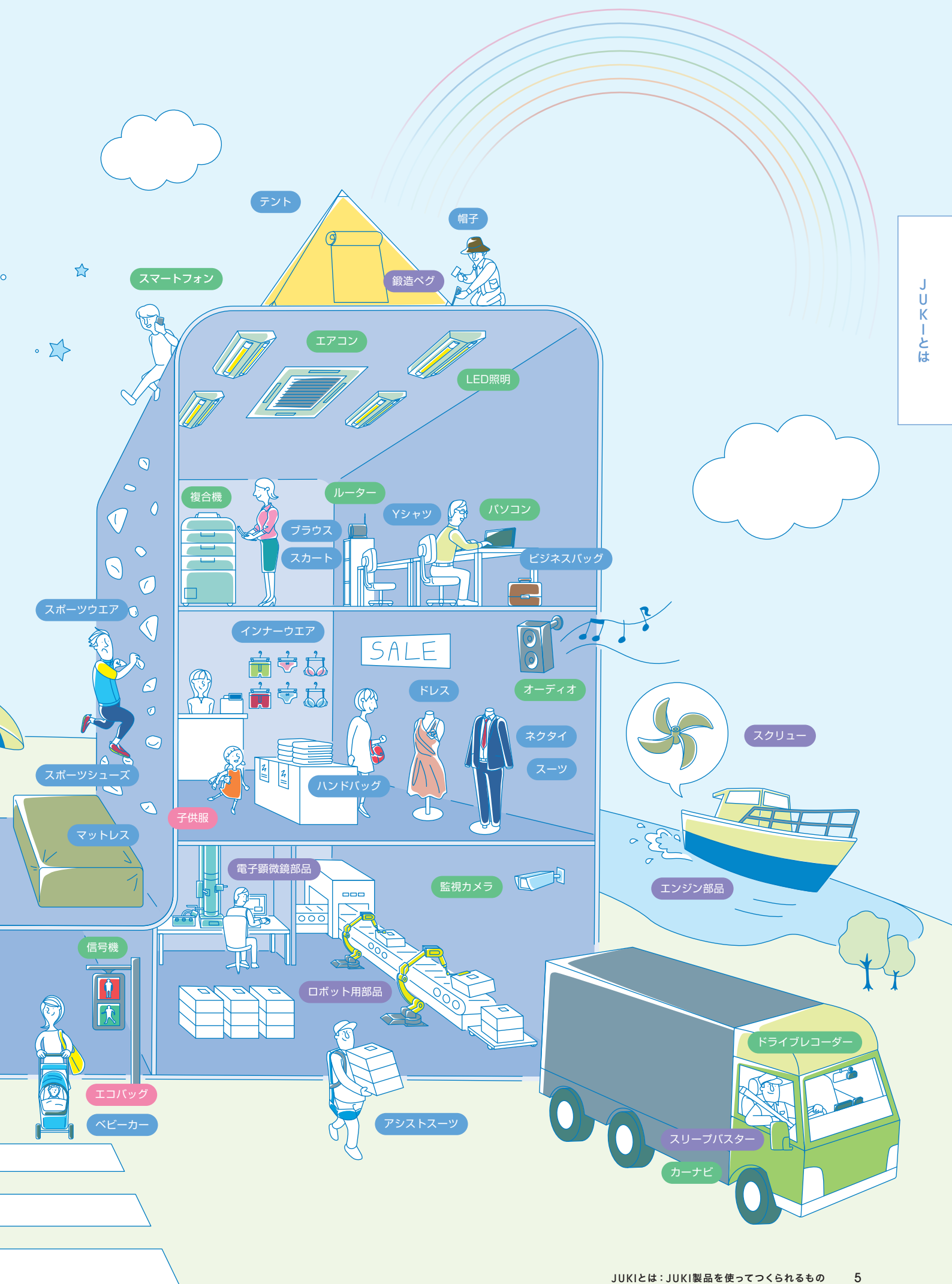
● 財務データ	58
● 沿革	62
● JUKIのグローバル拠点	64
● 会社概要および株式情報	66

JUKI製品を使ってつくられるもの

JUKIの製品を使って、こんな身近な“もの”が生まれています

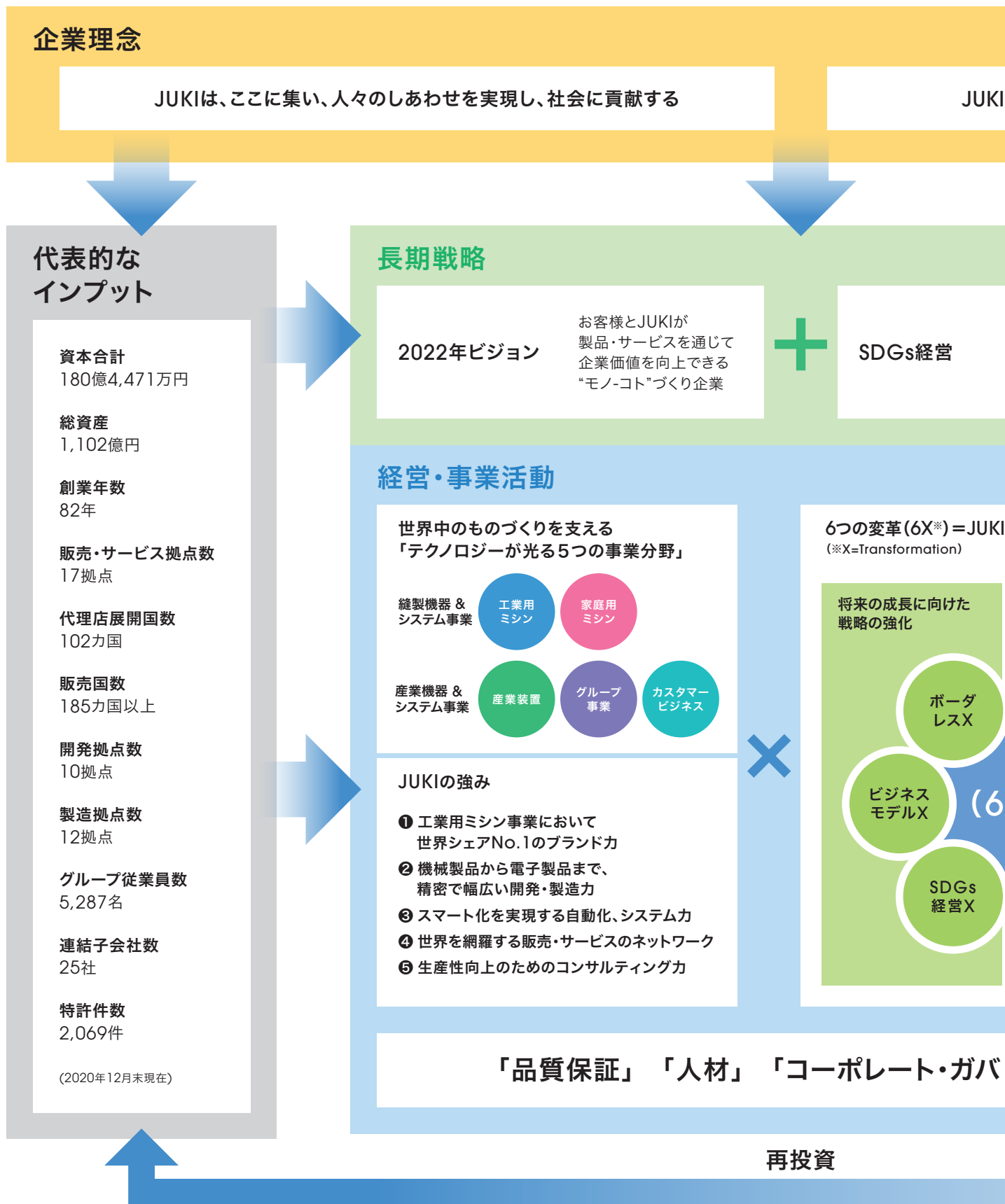
- 工業用ミシンを使ってつくられるもの
- 家庭用ミシンを使ってつくられるもの
- 産業装置を使ってつくられるもの
- グループ事業によってつくられるもの





JUKIの企業価値創造フロー（ビジネスモデル）

JUKIの製品は、世界185カ国のお客様にご使用いただいています。企業価値創造を通じ、社会の課題を解決し、豊かな暮らしを世界中で実現することがグローバル企業としての私たちの使命です。企業価値創造フローは、持続的に循環させることにより、事業成長と社会価値向上を実現させることを示しています。



は、技術を創造し、進化させ、新しい価値を生み出す

17の開発目標を達成するための社会課題の解決

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

の成長エンジン

ニューノーマルに対応した事業基盤の構築

- R&DモデルX
- 働き方改革X
- 財務体質X

ナンス」

中期経営計画 (2022年)の達成

売上高:
1,190億円

経常利益:
98億円

事業構成:
工業用ミシン以外の事業で50%以上

社会価値向上の実現

1. 雇用機会の創出
2. 様々な人材の社会参加推進
3. 労働安全衛生の確保
4. 生産面からの衣料廃棄ロス削減への貢献
5. 電子産業の生産性向上による技術革新支援
6. 環境負荷の低減

1 多様な人材の雇用促進
8 働き方改革の推進
9 労働安全衛生の確保
12 持続可能な消費生活の推進

など

豊かな暮らしを世界中で!

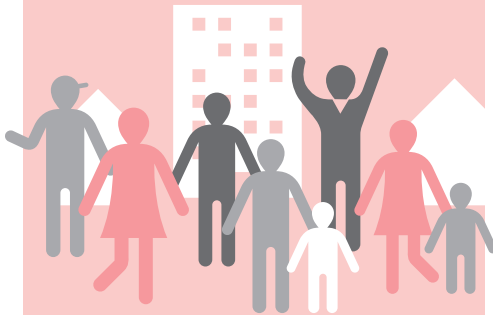
世界中の人々が衣服をまとい、ファッションを楽しむ豊かな暮らしの実現

IT・AIを活用した便利で快適な暮らしの実現

カーボンニュートラル実現による気候変動を防ぐ世界の実現

ステークホルダー

- ユーザー
- 代理店
- 株主
- 社員
- 協力会社
- 地域社会





JUKI株式会社
代表取締役社長 COO

内梨 晋介

社長インタビュー

新たな中期経営計画のもと、2つの構造改革と6つの変革(X)を通じて成長軌道への早期復帰を目指す

2020年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、世界の経済・社会が甚大な被害を被る厳しい1年となりました。各国の企業が困難な状況に直面しているなか、JUKIグループにおいても、早期の業績回復と新たな中期経営計画の着実な進捗が喫緊の課題となっています。構造改革をはじめとする現在の取り組みと中長期の展望について、若手社員5名が内梨社長にインタビューしました。



●インタビューー

スピード感ある経営でWithコロナ・Afterコロナ時代のパラダイムシフトに対応

—2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で世界経済が低迷し、JUKIグループの連結業績も減収減益となりました。2020年度の事業環境と経営成績を内梨社長はどのように分析されていますか。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、世界的に社会経済活動が縮小しました。各国で緊急事態宣言が発令され、主要都市ではロックダウンが実施されました。JUKIグループも業績悪化を余儀なくされましたが、人員調整をはじめとする構造改革や管理職の給与カット、一時帰休や勤務フォーメーションの変更といった対応策に全社員が理解を示してくれたことで、危機的な状況を何とか乗り切ることができました。お客様、取引先、グループ社員とご家族など、すべてのステークホルダーに改めて感謝の意を表したいと思います。

2020年度の連結業績は、売上が前期比29%減の704億円となり、経常利益は40億円の赤字となりました。家庭用ミシンが巣ごもり需要で伸長した反面、工業用シシンの売上高は前期比6割にとどまり、大きな減収となりました。また、産業装置も伸び悩みましたが、いずれもニューノーマルな環境下で成長する分野へスピードをもって対応できなかったことが課題です。JUKIが早期の業績回復を成し遂げ、成長軌道に復帰するためには、付加価値構造改革、すなわち事業領域の拡大と新規事業の創出を通じてビジネスモデルの転換を図らなければなりません。今後は新規や成長分野に経営

リソースを集中的に投下し、社会変化への迅速な対応と収益力の強化に注力していきたいと考えています。

—2020年度も全世界のグループ社員が一丸となってJUKIの発展に力を注ぎました。注目すべき取り組みや成果についてお聞かせください。

第一の成果は検査・計測ビジネスへの進出です。産業装置事業においては、これまでSMT(実装関連)顧客を中心に製品・サービスを提供してきましたが、2020年度は対象市場を拡大し、自動車や製造工場をターゲットにした取り組みを開始しました。2020年2月には検査・計測で独自技術を持つXTIA社に出資し、自動車メーカー向けの検査機の協同開発に着手するなど、事業の多角化が進展しました。

第二の成果は、JUKIの将来を担う若手社員の成長が確認できたことです。昨年開催した「One JUKI Project 2020」や「JGQMF(JUKI Global Quality Management Forum)」などの場において、若手社員や中堅社員が中心となり、SDGsを基軸とした新規ビジネス展開や働き方改革の推進、経営方針に基づく業務改革・改善への取り組みなど、多彩なテーマで意義ある提言・提案がなされました。若手社員や中堅社員が自己研鑽を積み、成長することで当社グループも新たなステージに飛躍できると信じています。



2014年入社
A.K

2017年入社
M.W

代表取締役社長 COO
内梨 晋介

— JUKIは現在、中期経営計画フェーズⅡ（2021-2022）を推進中です。計画策定の前提である事業環境と競争環境を内梨社長はどのように認識していますか。

JUKIは2017年度に6年先の2022年度を見据えた中期経営計画「Value up 2022」をスタートさせ、具体的な経営計画は事業環境の変化に対応して毎年3カ年計画のローリング（見直し）を行ってきました。昨年、2022年度に向けた3カ年の中期経営計画をスタートしましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業環境が大きく変動したため、初年度の計画を一旦中断することとしました。今回、改めて実行すべき施策、アクションプランを再構築し、2021年度から2022年度の2年間の中期経営計画を策定しました。

今回の中期経営計画（2021-2022）の再設定に当たって私たち経営陣が最初に行ったのは、JUKIが直面している事業環境や競争環境をいま一度、明確化することでした。まず事業環境については、今般のコロナ禍で仕事や暮らしの様式に大規模なパラダイムシフトが起きました。消費のオンライン化やテレワークの定着によって市場構造が変化し、新たなニーズが生まれています。また技術革新の分野では、5GやIoT、AIを活用した製品・サービスの導入が加速する一方、脱炭素（カーボンニュートラル）の動きが技術革新に拍車をかけています。工業用ミシンの世界では、カジュアル化の流れに呼応して、布帛からニット分野への需要シフトが進行しています。

JUKIグループを取り巻く競争環境は、かつてない厳しい局面を迎えています。工業用マシンでは、中国メーカーがM&Aなどを通じて総合企業に成長し、従来のモデル市場の囲い込み強化に加えハイエンド市場へと事業領域を急速に拡大しています。またドイツメーカーはノンアパレル分野で中国ビジネスの拡充を図っています。JUKIは工業用マシンの領域でトップを維持していますが、その地位に安住することは許されません。産業装

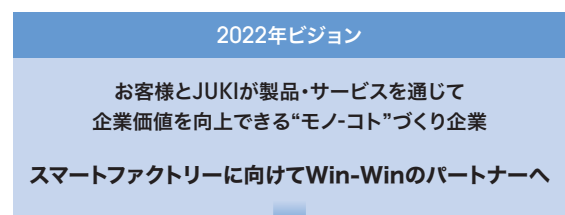
置では、M&Aを通じて周辺領域を取り込みつつある競争に対して、有効な差別化戦略を打ち出していくことが求められています。グループ事業に関しては、受託事業からの脱却と高付加価値化を実現すべく、エンジニアリング事業の確立と成長業種へのアプローチ強化や生産地移転への対応が不可欠です。

中期経営計画（2021-2022）を実効性のあるものにするためには、現状を正確に認識すると同時に、産業と暮らしの新たな様式である「ニューノーマル」に即応したビジネスモデルを構築することが欠かせません。

2021-2022中期経営計画

中期ビジョン

フェーズⅡとして2022年度にめざす姿（ゴール）



継続成長	既存事業の拡大に加え、「事業領域拡大/新規事業創出」による継続的な収益確保
収益性	高付加価値事業分野の拡大による収益力強化 縫製機器：ノンアパレル/非縫製 産業装置：非マウント分野 グループ事業：エンジニアリング事業 カスタマービジネス：サービス事業
生産性	スマートでスリムな経営基盤構築
安定性	安定した財務基盤構築

2014年入社
K.I

2017年入社
T.K

——中期経営計画(2021-2022)の根底に、外部環境に対する精緻な分析と、JUKIグループの経営課題に対する深い認識があることがよく理解できました。では、中期経営計画(2021-2022)の骨子と基本戦略についてお聞かせください。

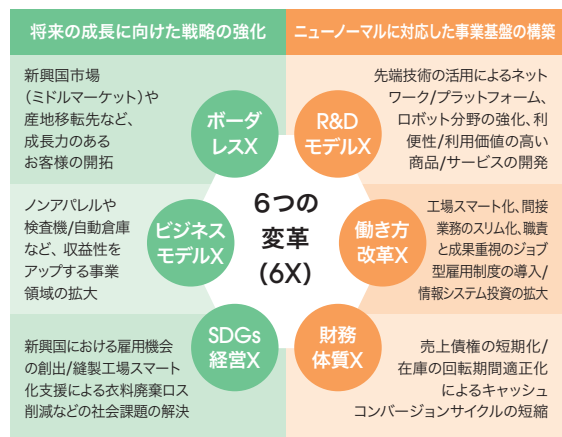
中期経営計画(2021-2022)の骨子となるのは2つの構造改革と6つの変革(X=トランスフォーメーション)です。構造改革のうちコスト構造改革については、2019年度に約370億円であった固定費を2020年度には新勤務フォーメーションの導入などにより約320億円まで圧縮、今後はこの水準を維持していきます。コロナ終息後、経済活動が再活性化するなかで320億円を堅守するためには、2020年度に導入した部門別定員制の遵守ならびに新勤務フォーメーションの浸透がカギとなります。業務の片寄せや多能工化により社員各自の業務範囲を拡大する一方、スキルアップにより生産性を向上

させることも必要です。もうひとつの付加価値構造改革では、既存事業の強化に加え、事業領域の拡大や新規事業の創出により、工業用マシン以外の売上高構成比を2018年度の41%から2022年度には50%まで拡大していく計画です。

6つの変革(6X)に関しては、「ボーダレス」「ビジネスモデル」「SDGs経営」「R&Dモデル」「働き方改革」「財務体質」の6つの領域で変革を引き起こし、成長軌道を堅持できる<稼げるモデル>への進化を追求していきます。このうち「SDGs経営」は事業を通じて社会課題の解決に貢献していくこと。新興国の雇用確保につながるJUKIの工業用マシン事業はSDGs経営そのものです。環境負荷の小さい製品の開発や縫製管理システム「JaNets」を活用した衣料廃棄ロス削減など、幅広い取り組みを通じてより健全で豊かな社会の確立に寄与していく決意です。

2021-2022中期経営計画 6つの変革(6X)

6つの変革(6X[※])=JUKIの成長エンジン ※X=Transformation
これら6つの変革に向けた取り組みを重点とし、構造改革のスピードをさらに加速



SDGsへの取り組み



JUKIとステークホルダー双方にとって重要な社会課題の解決に向け、事業を通して取り組む

取り組む社会課題	課題解決に向けた取り組み	関連するSDGs
雇用機会の創出	新興国における雇用新規創出/職業教育支援を通じた労働者人口の増加と労働者の待遇改善などの実現	1, 4, 8
様々な人材の社会参加推進		9, 10, 19
労働安全衛生の確保	市場の不織布マスクおよび防護服供給不足の改善	3
生産面からの衣料廃棄ロス削減への貢献	「短期間で良質な製品をローコストで製造する工場」の実現	9, 12
電子産業の生産性向上による技術革新支援	実装工場における前後工程インフラの改良	9, 12
環境負荷の低減	事業活動を通じた環境負荷低減	7, 13, 14, 15

——付加価値構造改革のポイントと、ユニット・センター別の重点テーマをお聞かせください。

工業用マシンでは、ノンアパレル事業やニット事業の拡大に加え、新興国のミドルマーケットを開拓・深耕していくことが大切です。中国を中心とするノンアパレル市場の攻略やカジュアル化の潮流に対応したニット戦略の展開を強化していきます。家庭用マシンでは、2021年度前半は巣ごもり需要の取り込み、後半以降はHZL-UX8などのハイエンドクラスの新製品の拡販やエリア対策の強化に注力します。

産業装置事業では、5GやIoTの進展を背景に需要の拡大基調が続いています。高速機市場を中心に増大する需要を的確に捉えつつ、検査機及び自動倉庫の拡販や非SMT顧客の新規獲得に努めることにより、売上の拡大を図る計画です。

カスタマービジネスのうち工業用マシンについては、点検サポートシステムやe-ラーニングを活用する新たなビジネス手法の確立に取り組み、産業装置については、非マウント領域におけるパーツ販売の拡充や遠隔サポートシステムを駆使した顧客サービス支援など新たな事業分野を強化します。「モノ」から「コト」へのトレンドを象徴するカスタマービジネスの成長がJUKIグループのビジネスモデルを変革するエンジンになることを期待しています。

グループ事業では、エンジニアリングや開発組立など付加価値の高い分野でのビジネス拡充が急務です。またお客様は今般のコロナ禍でサプライチェーンが分断されたことを受けて生産地や調達地の分散を図っています。ベトナムだけでなくASEAN全域において情報収集とビジネス獲得に向けた新たな仕組みを構築しなければなりません。

生産センターでは縫製機器や産業装置を中心に、タイムリーかつ安定的な供給に努めていきます。開発センターは、工業用マシンや産業装置に対する自動化、デジタル化のニーズに応えるため、AIなどの先端技術を駆使したソリューションの創出に取り組んでいきます。

——私たちが日々、仕事を進めていく上で数値的な目標は励みになります。中期経営計画（2021-2022）の全社的な計数目標を改めて教えてください。

ビジネスを成長軌道に回帰させつつ、併せて質的転換を図ることで、2022年度の数値目標は連結売上高1,190億円、連結経常利益98億円の達成を目指していきます。2020年度の連結売上高は704億円でしたので、中期経営計画

（2021-2022）の付加価値構造改革で上積みを図り、さらに既存領域の強化や新型コロナウイルス感染症の終息に伴う市場回復効果分を加えて、2020年度比で総計486億円の売上増を実現したいと考えています。これにより、先述した通り工業用マシン以外の売上高比率を従来の41%から50%まで高め、事業ポートフォリオのさらなる適正化を図ることもJUKIグループの将来にとって必要不可欠の取り組みテーマだと考えています。

——日本企業ではいま、働き方改革の推進が喫緊の経営課題となっています。内梨社長はJUKIグループの働き方改革に対してどのようなご方針、ご計画をお持ちでしょうか。

働き方改革については人事処遇の変更を基軸に対応していく方針です。2020年度にはグローバル人材強化委員会での議論をもとに、管理職定年制の導入を通じてライン職とスタッフ職の役割を明確化すると同時に人材を循環させるシステムを構築しました。また、新勤務フォーメーションの導入やキャリアチャレンジ制度の試行により、多様な働き方を選択できる仕組みを確立するなど、ジョブ型雇用に向けた体制づくりに取り組んできました。2020年の夏からは業績連動型の賞与支給もスタートしました。

2021年上期には定員制を前提とした新勤務フォーメーションを制度化し、仕事の片寄せを完了させ、新たな業務開発を含めた仕事の再配分を進めていきます。またジョブ型雇用に基づく新たな人事制度の設計にも取り組みます。職務記述書を活用して業務管理と評価を行い、仕事の価値と処遇のバランスを適正化する方針です。こうした人事施策の実行により、難しい仕事で所定の成果を挙げた社員を正当に報いる仕組みができます。



——2022年度のゴールに向けて、2021年度はJUKIの真価が問われる重要な年度になると思われます。2021年度の経営方針と事業計画についてお聞かせください。

2021年度の上期は新型コロナウイルス感染症の影響が残存し、下期は感染症の収束に伴って世界の経済社会が次第に正常化していきだろと予想しています。当面は「命を守ること」と「経済を復興すること」の両立が企業運営における最重要命題となります。

JUKIでは、中期経営計画(2021-2022)の初年度として、連結売上高1,000億円(前期比142%の増収)、連結経常利益28億円(前期比68億円の増益)を見込んでいます。この数値は米中貿易摩擦の余波を受けて減収減益となった2019年度の水準こそ上回るものの、2018年度の業績にはいまだ及びません。成長軌道復帰への端緒をつかみ、中計最終年度である2022年度につなげていく重要な年になるとの位置づけです。

部門別の事業計画を概観しますと、前年対比で工業用ミシンが151%、家庭用ミシンは122%、産業装置は142%、グループ事業は125%、カスタマービジネスは142%の増収を目指していきます。工業用ミシンでは、自動車などノンアパレル関係の需要が動き出し、アフリカのミドル市場ではラインソリューション営業に成功する好事例も出るなど明るい兆しが見え始めました。産業装置は、5Gやウェアラブル関連業界の活況を背景に、国内外半導体メーカーの設備投資需要が堅調に推移しています。このフォローの風を逃がさず、商機に結実させていくことが肝要です。

2021年度は、早期の業績回復によりステークホルダーの信頼を取り戻し、次なる成長に向けて新たなスタートを切りたいと決意しています。

——2021年1月に、清原会長、内梨社長の新体制が発足し、JUKIグループは新時代に向けて船出しました。世界中のグループ社員はもちろんお客様、取引先、株主の皆様、地域社会の方々など、多くのステークホルダーがJUKIの先行きに注目しています。最後に内梨社長のご決意と社員に期待されることをお聞かせください。

2021年度から、会長CEO(最高経営責任者)と社長COO(最高執行責任者)という新たなガバナンス体制でグループ運営に臨むこととなりました。清原会長CEOが取締役会の議長となり、社外役員に加え社内からの経営陣に対する監督機能を強化し、持続的成長を実現するための中



長期的経営戦略や人材戦略、SDGs戦略等を管掌します。私は社長COOとして重要な会議の議長を務め、役付役員やコーポレートオフィサーと緊密な連携を保持しつつ業務執行のPDCAサイクルをしっかりと回していきます。

JUKIグループの経営に当たって私がとくに留意しているのは、課題を解決する一番の近道である「現場」「現物」「現実」の三現主義を徹底することです。またスピード感ある意思決定とフラットな組織運営を通じて、機動性ある事業展開を追求していきます。

新型コロナウイルス感染症の再拡大、急速な技術革新、他社との競争激化などJUKIグループを取り巻く経営環境は今後も一段と厳しさを増していくでしょう。この困難な時代を経営陣と社員が一丸となって切り拓き、すべてのステークホルダーから信頼される企業グループを目指していきたいと思えます。皆さんには、スピード感を持って仕事に当たること、物事を矮小化せず、幅広い視野で自分自身と組織の成長を考えること、そして同僚、上司、取引先、お客様と常に良好なコミュニケーションを取り、業務に邁進してくれることを期待しています。JUKIグループのさらなる発展に向けて一緒に頑張っていきましょう。

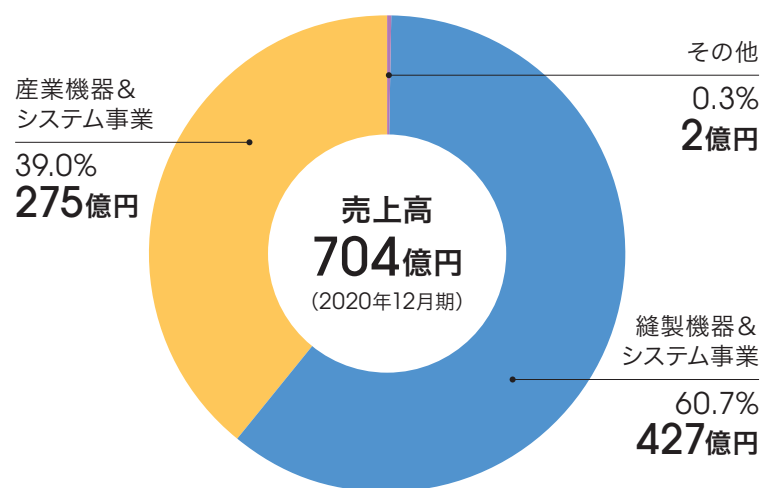
〈2021年1月〉

事業領域



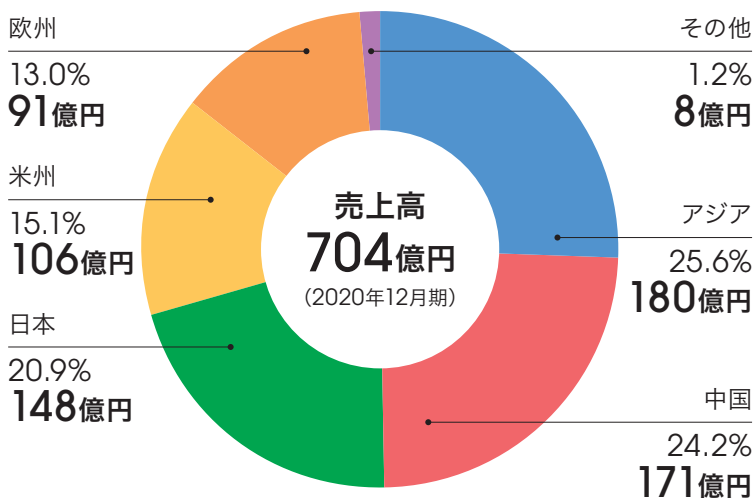
事業別売上高割合

JUKIは先進の技術・価値ある技術で世界のものづくりを支えています。



地域別売上高割合

世界約185カ国以上をカバーする販売・サービスネットワークで、世界中のお客様から強い支持をいただいています。

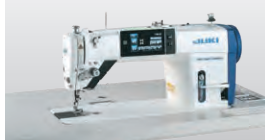


世界のお客様のイノベーションに貢献する JUKI Smart Solutions

縫製機器 & システム事業

2,000機種以上のミシンやシステムで、プロ用から趣味層まで、あらゆる“縫い”をサポートする事業です。

工業用ミシン事業



縫製機器の業界を
牽引する世界トップの
リーディング事業

世界トップシェアの工業用ミシンを中心に、自動化装置・ITシステムなどと組み合わせ、最適な縫製工場作りをお手伝いさせていただく事業です。生産性向上、省人化、脱技能化、働きやすさ、品質向上などに、ラインソリューションでお応えします。

家庭用ミシン事業



Home Sewerの
創造性を刺激する製品を
提供する事業

工業用ミシンの性能を取り入れた確かな製品力で、快適なソーイングライフをサポートする事業です。様々なワークショップを開催し、幅広い分野の趣味層を応援します。

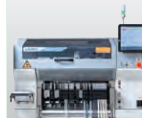
JUKIの事業

産業機器 & システム事業

永年培った“ものづくり力”を生かし、製品やシステム、開発力・製造力でお客様の生産工場をサポートする事業です。

産業装置事業

実装関連装置事業



基板製造工場を
トータル・ソリューション
でサポートする事業

「基板」を生産するための装置やシステムの提供を通じて、工場全体のスマート化をサポートさせていただく事業です。自動倉庫の運用、基幹システムとの連携で生産性・品質の向上に貢献します。

自動倉庫、検査・計測システム



IoT、画像処理技術で
技能者の手作業を
自動化する事業

基板生産工場に向けたスマート化技術を活用して、他業界における自動化をサポートする事業です。部品棚の自動化や目視検査の自動化を装置とシステムでサポートします。

カスタマービジネス



世界中で活用される
JUKI製品を最適な
稼働状態にサポート
する事業

世界185カ国で活用されている工業用ミシンと産業装置を、パーツ供給やマシンのリモートコントロールを通じて、より良い環境でご使用いただけるように、サポートする事業です。

グループ事業

グループ事業(受託開発・製造事業)



「人・設備・方法・材料」
の総合力で製造会社を
サポートする事業

JUKIグループ各社が、主要製品を生産する中で培った開発・設計・生産・生産管理のノウハウを生かして、様々な製品の開発・製造・加工などを受託する事業です。

スリープバスター



安全な走行を
サポート

居眠り運転警告装置やそのデータを活用し、安全・安心な走行の習慣化を促進するための事業です。過労運転防止や交通事故の低減に貢献しています。

データエントリーシステム



データ入力
のプロをサポート

工夫された入力システムで、大量のデータを処理する情報処理産業をサポートする事業です。生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界のニーズに対応しています。

INDUSTRIAL SEWING MACHINES BUSINESS



Products



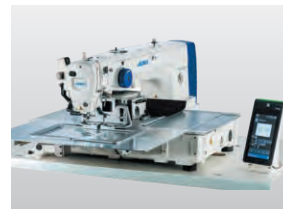
ダイレクトドライブ高速本縫
自動糸切りソーイングシステム
DDL-9000C



セミドライヘッド・シリンダーベッド型
片面飾り偏平縫いミシン
MF-7900D



パターンシーマ
PS-800



入力機能付き
電子サイクルマシン
AMS-221F



工業用ミシンの製造・販売拠点

- 主要製造拠点
- 主要販売拠点

- JUKIセントラルヨーロッパ株
- JUKIイタリア株
- 重機(廊坊)工業有
- 重機(中国)投資有
- 重機(上海)工業有
- JUKI(株)大田原工場
- JUKI販売株
- JUKI松江株
- JUKIマシナリーバングラデシュ株
- JUKI香港株
- JUKIインドネシア株
- JUKIシンガポール株
- JUKIマシナリーベトナム株
- JUKIベトナム株
- JUKIタイランド株

JUKIアメリカ株

185カ国以上のお客様をカバーするネットワークで、縫製産業を支える「世界シェアNo.1」事業

最先端トレンドを提案するメゾンブランドからカジュアルアパレル製品、スポーツ用品、カーシートなど、縫製が伴うあらゆる分野の製品の“縫い”を実現し、世界の縫製産業を幅広く支えるJUKIの工業用マシン。

直線縫い、ジグザグ縫い、ボタン付けなどそれぞれの専用縫いを追及したマシン、縫製アイテムや素材の変更などにアクティブに対応できるデジタルマシン、複数の工程をスイッチ一つで行う自動機マシンなど、幅広いラインナップで縫製ラインをワンプランドで揃えることができます。また、IoTを活用し、これらの機器をネットワークでつなぐことにより、高次元の工場管理ができるシステムを構築しています。

JUKIは「Smart Solutions」のキーワードのもと、革新的かつ高精度な技術でお客様のご要望に応え、それらをラインソリューションとして提案し、お客様の課題を解決します。



Customer Solutions

1. ワンプランドでのライン構築

JUKIの工業用マシンのラインナップは約2,000機種にも上ります。その種類は縫製する素材・用途によって、布帛用、ニット用、ノンアパレル用、複数工程を1台で完了する自動機など多種多様です。縫製品質、脱技能、生産性を追求した幅広いラインナップで、お客様のニーズに沿った最大限のパフォーマンスを実現するラインソリューションをご提供します。



2. マシンのデジタル化と工場の見える化によるスマートファクトリー提案

マシンの調整をメカ式からデジタル化し、マシン間、工場間で共有することができ、段取り時間の大幅な短縮が図れます。また、デジタル化によりマシンの稼働データやメンテナンス情報を取得することができ、これらのデータを分析・加工することで工場の見える化が図れます。縫製工程のロボット化など、JUKIのソリューションはスマート工場の実現をサポートします。



3. 安定した品質、サポートで安心を提供

JUKIには60年以上の活動実績に裏打ちされた豊富な経験のもと、お客様工場が抱える諸問題についての的確にサポートするプロ集団を世界各地に配置。安定した品質や生産性が求められる縫製工場において、トラブル時の対応のみならず、技術指導やセミナー、生産性向上のコンサルティングなど、最強のカスタマーサポートでお客様を支えます。

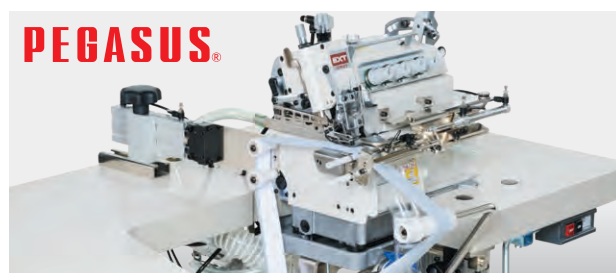
TOPICS

環縫いマシン専門のリーディングカンパニー「ペガサスマシン製造」と事業提携

ニット製品を縫製する環縫いマシンにおいて、世界トップクラスの専門メーカー「ペガサスマシン製造(株)、以下、ペガサス」と2021年4月26日、工業用マシン事業分野を中心とした事業提携を締結しました。

ペガサスとの協業で、環縫いマシンのデジタル化やネットワーク化などを共同で進め、IoTを駆使した生産の見える化、スマート化工場への進展を加速します。

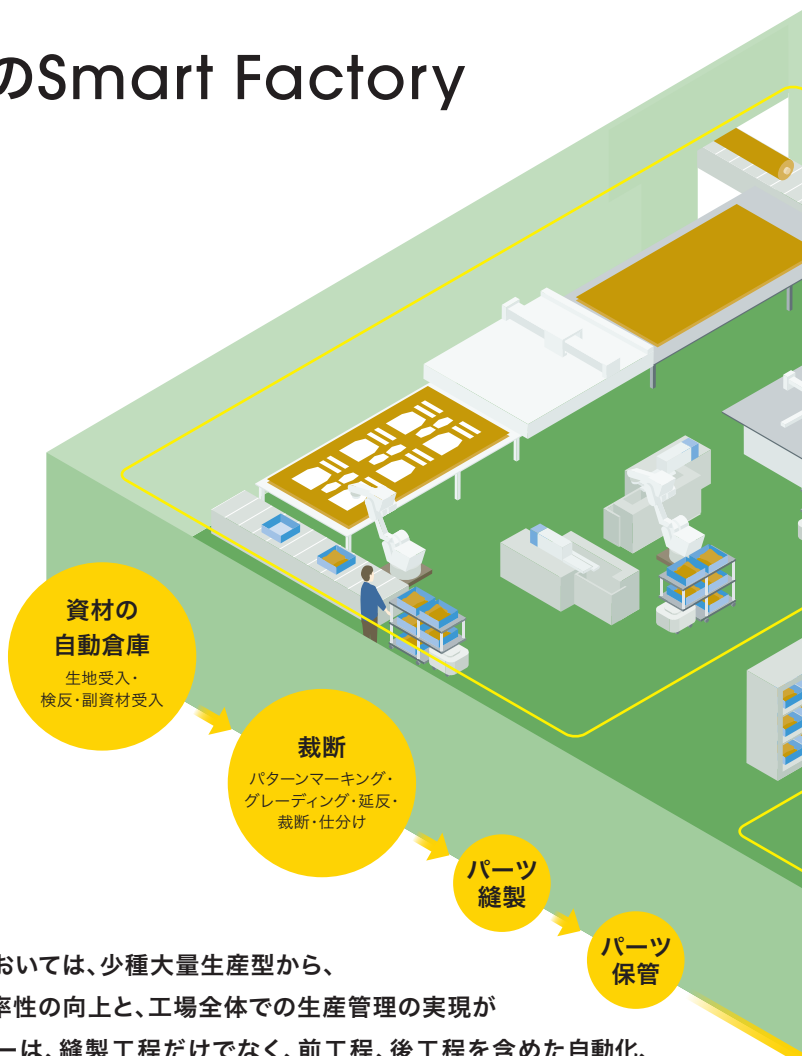
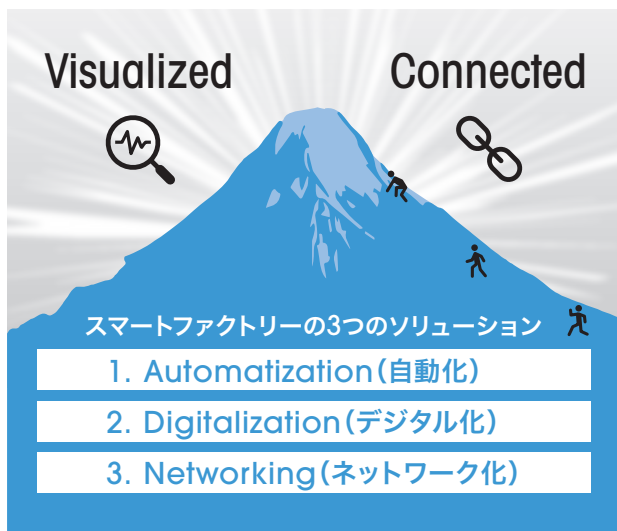
ポストコロナ時代のニューノーマルとして、カジュアル化やニット用途の拡大、新素材の多様化など、環縫いマシン市場が拡大しており、製品だけでなく、新興国市場での相互補完した営業サービス網の構築など、営業面での協業も進めます。



ペガサスマシン製造(株)の環縫いマシン

JUKIが提案する縫製工場のSmart Factory

What is Smart Factory?



消費者行動の変化やニーズの多様化により、縫製工場においては、少種大量生産型から、多品種少量生産への変革が求められている中、さらなる効率性の向上と、工場全体での生産管理の実現が課題となっています。JUKIが提案するスマートファクトリーは、縫製工程だけでなく、前工程、後工程を含めた自動化、デジタル化により、生産効率をさらに向上させ、工場全体をネットワークでつなげ、生産進捗を可視化することです。JUKIは、お客様の課題に耳を傾け、お客様個々の生産状況に沿ったスマートファクトリーを構築します。

1. Automatization (自動化)

自動機

人の手によるハンドリング縫製、はさみでのカット作業、生地の折り曲げ、いせ込みなど、複数工程をフルオート化したミシンを数多く品揃えています。



AGV (自動搬送装置)

工場内での縫製パーツの搬送はAGVで自動化します。搬送時間のムダを無くし生産計画に沿った搬送を行います。



自動機・ピッキングロボット

裁断工程からAGVで搬送された生地を縫製パーツに自動で仕上げます。ピッキングはロボットで行います。



後工程の自動化

人の手で行うことが多かった縫製後の後工程を、折畳機、パッキング機、製函・封函機などの導入により、製品が出来上がってから出荷に至るまでの自動化を図ります。



2. Digitalization (デジタル化)

縫製工程のデジタル化

デジタル化された仕様書を見ながら縫製します。ミシンの稼働状況を集約でき、生産進捗やオペレーターごとのばらつきをタイムリーに確認できます。



デジタルミシン

“縫い目”の調整機能をデジタル化し、数値で記憶することができます。調整後のデータは専用アプリを入れたタブレットに記憶させることができ、別のミシンへのデータ転送も可能です。これにより従来、勤や経験に頼っていた縫い調整が短時間ででき、縫いデータの共有化・管理が容易になり、グローバルでの品質の安定化が図れます。



縫製工場の Smart Factory

前工程

縫製工程

後工程

JUKIの事業

縫製ライン

工程分析・工程編成・
設備調整・レイアウト
変更

後工程

仕上げ・検査・
梱包

製品倉庫

完成品

出荷

3. Networking (ネットワーク化)

縫製管理システムソフト *JaNets* Juki Advanced Network system

ミシンをネットワークに繋ぐことで、各ミシンの稼働情報などの設備データがリアルタイムに見える化され、そのデータを分析することで改善活動につなげることができます。さらにデジタルミシンを使うと、システムとミシン間で双方向通信ができるようになり、段取り換えの際に縫いの制御情報をミシンにダウンロードすることもできます。今後は予兆管理やトレーサビリティなど“情報”を活用したサポートコンテンツを増やしていく計画です。



工場のコントロール室での見える化

生産計画に対する現状の出来高、生産性を左右するラインバランスや、ボトルネック工程が一目で確認できます。さらに工場と工場をつなぎ全社のサプライチェーンの円滑化を進めることができます。また、これらのデータを分析・加工することで工場全体の課題見える化できます。



HOUSEHOLD SEWING MACHINES BUSINESS



創造性をサポートするミシンで 趣味力の高いお客様と新たな楽しみの創造

ソーイングを趣味にされている方から、オーダーメイドのテーラーさんまで、個人使用から職業的な用途まで、幅広く活用されているのがJUKIの家庭用ミシンです。JUKI工業用ミシンで培った技術を取り込み、高品質・高機能なハイクラスな商品をご提供しています。

製品のご提供と併せて、機能の活用や作品作りの楽しさを共有していただく「ワークショップ活動」を積極的に実施しています。ソーイングの趣味を細かく分類して、手芸作家の先生とコラボレーションすることで、ミシンソーイングに関する深い知識を提供することができます。

またSNSを活用して、お客様とコミュニケーションを図る中で、さらなるJUKIファン作りを進めています。



Products



コンピュータミシン
《Kirei》H2L-UX8



2本針4本糸差動送り付き
オーバーロックミシン
MO-114DN



職業用直線ミシン
SL-700EX



家庭用キルト専用
ロングアームミシン
TL-2200QVP

Customer Solutions

1. 確かな製品・技術

ミシンの本質である“縫い目”にこだわり、ワンランク上の“縫い”をご提供します。厚物や段部乗り越え縫いはもちろん、細かい針基線変更や縫製途中でも縫い目の長さや振り幅の調整も簡単かつスムーズに行えます。縫い目をデザインした「キルト」作品も美しく仕上がります。



2. ミシンの機能とソーイング知識をワークショップでご提供

ミシンソーイングの趣味を「洋裁」、「小物・バッグ」、「ドール衣装」、「キルト」など、細かく分類して、それぞれを得意とする作家先生とそれに適したミシンとをコラボレーションし、ミシンの機能やソーイングの知識を深めていただくワークショップを定期的で開催しています。



3. 世界を網羅する販売・技術サポート

世界に張り巡らせた工業用ミシンの販売・技術ネットワークを活用してお客様をサポートしています。製品の使い方やメンテナンス方法に加え、ミシンの機構や美しい縫い目の作り方など、様々な講習会を開催し「安心」を提供しています。



TOPICS

第19回「東京国際キルトフェスティバル2020」へ出展

毎年20万人以上の入場者が訪れる世界最大規模のキルトの祭典「東京国際キルトフェスティバル2020」に「JUKIで広がる私の世界」のテーマのもと出展しました。

今回はキルトのミニバッグや本革製のトートバッグのワークショップを中心に、最新鋭のミシン、ソーイングの幅を広げていただくためのアタッチメントなどを紹介しました。



2020年1月 東京ドームにて

「JUKI Webソーイングフェスティバル2021」を開催

新型コロナウイルス感染拡大により中止となった「2021日本ホビーショー(毎4月末開催)」の代替として、5月にInstagramライブ配信を活用した初のオンラインフェスティバルを5日間開催しました。ミシンのお手入れ方法やワークショップなどの特別プログラム12講座を開催し、延べ2,500人の参加がありました。講座中に質問や感想などのコメントも随時入り、対面式と変わらない満足度の高いイベントとなりました。



手芸作家 猪俣先生による2way/バッグのワークショップ

ELECTRONIC ASSEMBLY SYSTEMS BUSINESS



Products



高速スマートモジュラー
マウンタ
RS-1R



高速コンパクトモジュラー
マウンタ
RX-8



3D基板外観検査機
(AOI)
RV-2-3DH



マルチタスク
プラットフォーム
JM-100



インテリジェント
ストレージ管理システム
ISM3600



産業装置の製造・販売拠点

- 主要製造拠点
- 主要販売拠点

- JUKIオートメーションシステムズGmbH.
- エセジオートメーション(有)

東京重機国際貿易(上海)有

JUKI産機テクノロジー(株)

JUKIオートメーションシステムズ(株)

JUKIオートメーションシステムズINC.

JUKISMT アジア(株)

JUKIインドニア(株)
SMT本部

基板生産工場を トータルソリューションでサポート

私たちの日々の暮らしに欠かせないあらゆる“製品”の中に組み込まれ、その製品の頭脳の役割を担うのが「電子回路基板」です。スマートフォンや家電製品、車や電車などの乗り物、オフィス、病院、工場内の装置まで、様々な製品に使われています。

JUKIは、基板生産装置の総合メーカーとして、お客様ニーズを捉えた基板生産装置のラインナップや、装置と連動して電子部品を収納・供給する自動倉庫や無人搬送装置、ロボット挿入システムなど、最新技術を駆使した装置をご提供しています。

JUKIが目指すのは、お客様の製造ライン全体、またフロア全体での生産性を向上させるための“トータルソリューション”のお手伝いです。装置をネットワークで結び、生産の進捗や設備の稼働状況などをリアルタイムで表示させる「生産の見える化」システムにより、より高い次元の工場へと進化させることができます。

JUKIはIoT、M2M、AIなどの最新技術を活用して、お客様工場のスマート化をお手伝いします。



Customer Solutions

1. 柔軟なライン構築ができるフルラインナップ製品

基板を生産するための装置をフルラインナップしています。生産スピードと高汎用性を兼備したマウンタや、不良基板の流出を防ぐ高速3D検査機、はんだの塗布を高速・高品質で行う印刷機など、多品種少量生産、変種変量生産など、柔軟なライン構築ができます。



2. 工場全体の生産の管理・向上をサポート

基板生産のための部品受け入れから完成品出庫まで、装置やシステムを活用して、工場全体の改善や生産性向上のサポートや省人化など、トータルソリューションのお手伝いができます。手作業の自動化、部品管理の自動化、生産計画の達成に貢献するシステムソフトなどで工場全体をサポートします。



電子部品を保管管理する自動倉庫

3. リモートコントロールサポート

リモートでライン全体のモニタリングを行い、生産ラインの障害をいち早く発見して復旧につなげます。さらに、蓄積した情報を解析することにより、安定稼働状態の維持に加え、ライン全体の生産性の向上や品質の向上につなげることができます。リモートコントロールによるサポートで、より高い次元でのスマート化に貢献します。



TOPICS

「NEPCON CHINA 2021」に出展

中国最大の表面実装技術・製造装置の専門展示会「NEPCON CHINA 2021」に出展しました。省人化・スマート化の要求が高まる中国において、「JUKI Smart Solutions」～自動化で拓く工場変革と事業成長～をテーマに増々需要が拡大しているLED表示灯などの実装に向けた高速・高品質ライン、後工程の異形実装機の自動化、電子部品管理の自動化などの最新ソリューションを訴求しました。



2021年4月 中国・上海にて

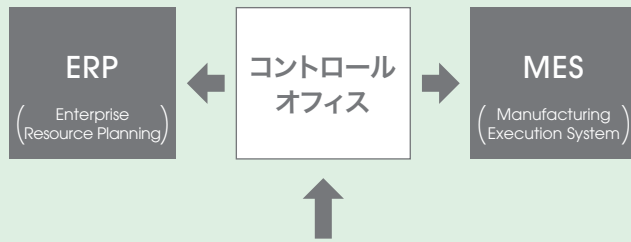
産業装置事業

基板生産工場の設備とシステムの融合により 工場全体がつながるJUKIのトータルソリューション

JUKIのSmart Factory提案

実装統合システムソフト **JaNets** Juki Advanced Network system

マウンタや自動倉庫、他装置をつなげた実装ラインの生産管理はもとより、お客様の基幹システムとの連携により、フロア全体での生産性の向上を実現します。



部品誤装着防止

ライン管理トレーサビリティ

JaNets

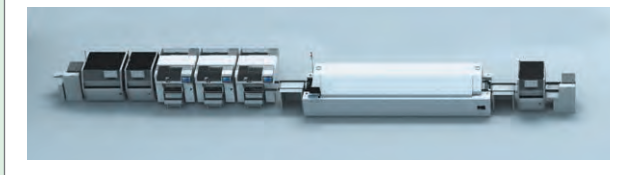
Juki Advanced Network system

設備間連携外部出力機能

設備稼働状態 (ライン) 	設備稼働状態 (マシン) 	設備稼働状態 (ISM)
不具合解析 	生産進捗 	設備稼働分析
在庫管理 	設備保全 	リモートサポート



基板製造工場



基板生産工場

部品
受入



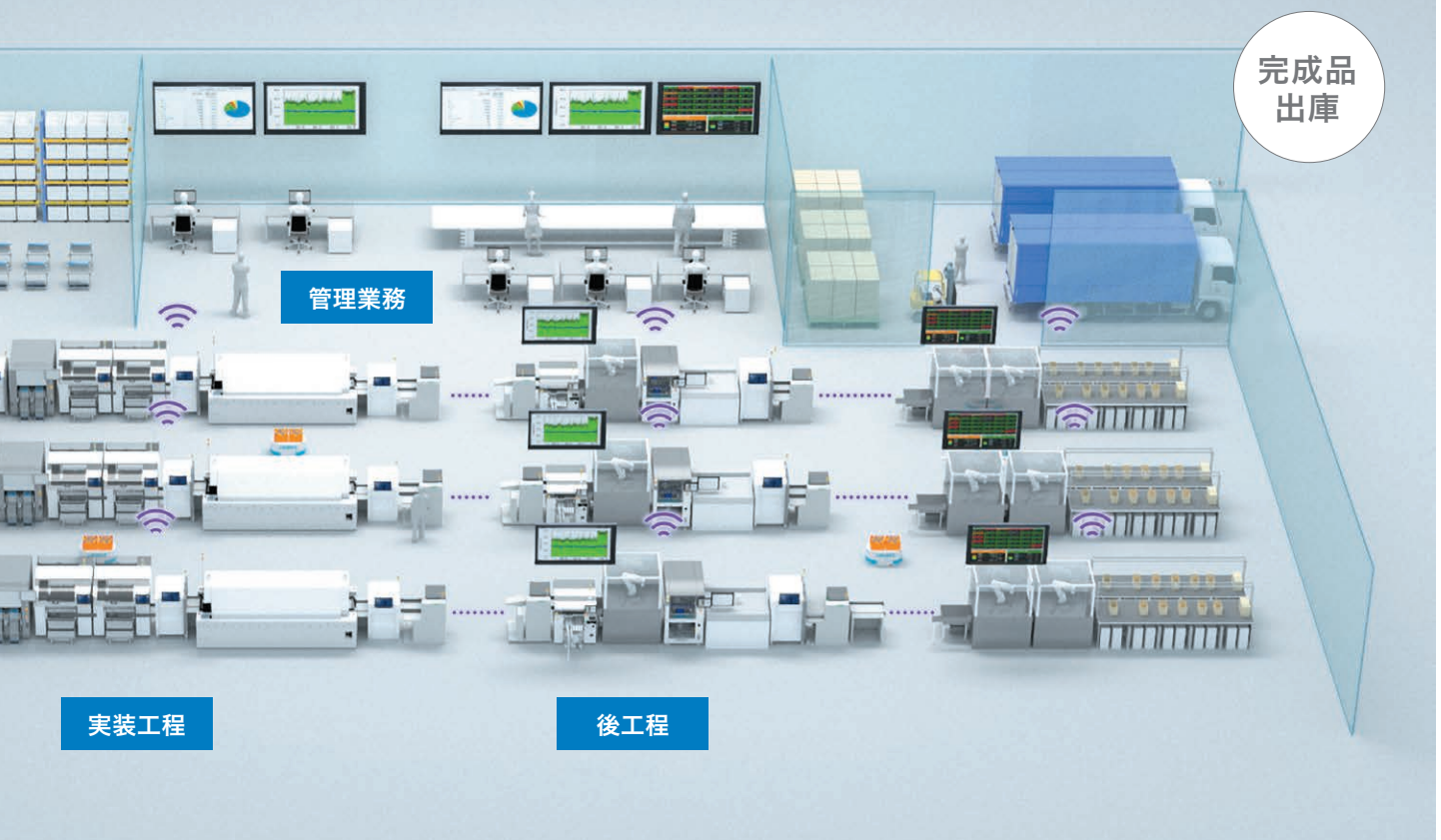
実装システムソリューション

JUKI独自の機構を搭載した印刷機、検査機、チップマウンタ、汎用マウンタをフルラインナップしています(リフロー除く)。搭載する電子部品の高さに応じてヘッドの部品認識センサーの高さを可変させ、ヘッド交換を不要にしたマウンタなど、幅広いラインナップで、変種変量生産をはじめ、実装ラインの生産性向上に貢献します。

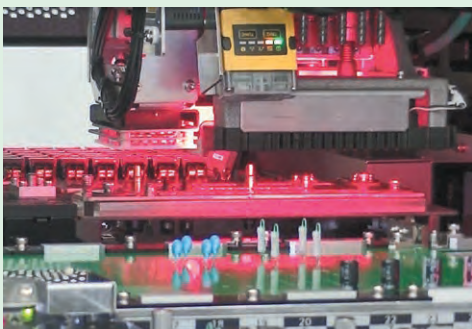


JaNetsを活用したIoTイノベーション

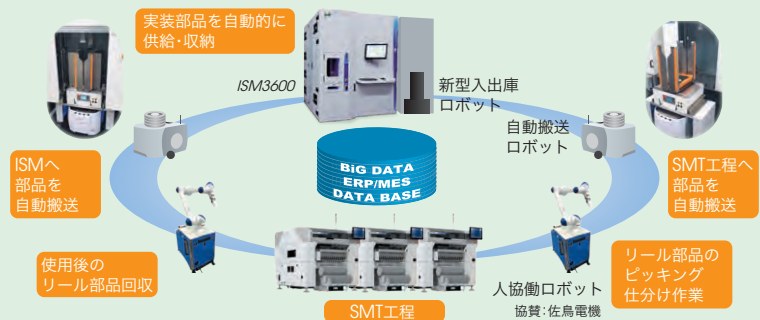
Juki Advanced Network system



後工程自動化システムソリューション
 従来人手で行っていた部品挿入工程を自動化する装置です。リード部品のリード先端を正確にセンタリングし、確実な挿入を実現します。



ストレージシステムソリューション(部品供給管理効率化)
 実装ラインと連動させ、人手で行われている実装部品の供給管理業務を自動化する仕組みです。部品を自動的に供給・収納する自動倉庫や、自動倉庫から部品を搬送するAGV、リール部品をピッキングする人協働ロボットなどを活用することにより、作業効率、生産性を飛躍的に向上できます。



「自動倉庫システム」を多業界へ展開



多業界の部品や商品の入出庫を自動化 基幹システムとの連携で部品・商品管理業務の効率化を実現

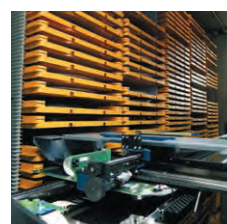
電子部品を保管・管理する「自動倉庫」の活用範囲を広げ、製造工場の補用部品、病院の消耗器具や薬、高額素材や商品を保管管理するための装置として、多業界のお客様に自動倉庫システムを提供しています。

近年多くの業種で課題となっている人手不足や効率化ニーズに、部品・商品の管理を効率化するシステムでサポートします。

Customer Solutions

1. 部品・商品の管理に最適な機能

ほこりの侵入を防ぎ、湿度がコントロールされた空間で、部品や商品の品質を保持し、セキュリティも担保します。また隙間のない収納で省スペース化が図れます。



2. 様々な部品、商品の保管が可能

トレーを変更することで、様々なサイズの部品や商品を保管できます。バーコードで管理するため、大量の在庫の中から、必要なものをピンポイントで取り出せます。



3. システム連携による在庫管理の効率化

IoTを活用して、ERP、MESとのシステム連携が可能で、現場と連携したタイムリーな入出庫がリアルタイムな在庫確認が可能です。AGVやピッキングロボットを活用することで搬送作業を自動化できます。

Products



インテリジェントストレージ管理システム

TOPICS

ESSEGI AUTOMATION S.r.l.への出資と協業強化

自動倉庫において従前より協業を行ってきたESSEGI AUTOMATION S.r.l.(エセジオートメーション(有))に出資(出資比率49%)し、自動倉庫における企画・開発を通じた技術力の融合から、製造・販売・サービスに至る事業全体での協業を強固なものにしました。

自動倉庫は電子部品の他にも多様な分野での活用の可能性があり、同社との協業により自動倉庫事業のさらなる加速を図ります。



イタリアに本社を構えるESSEGI AUTOMATION S.r.l.の社屋

「検査・計測システム」を 機械工場へ展開



製造業における 抜き取り目視検査を全数インライン自動検査へ

プリント基板を自動検査するJUKIの技術に、ノーベル賞受賞技術である「光コム」を製品化したXTIA社センサを融合させ、自動車のエンジン部品や機械製品の部品を検査する装置を提供しています。目視検査でしか成し得なかった技能と経験を要する外観検査の完全自動化が図れます。

JUKIは技能人材不足、効率化ニーズに、死角のない検査機でサポートします。



Customer Solutions

1. 技能者の目視検査を自動化

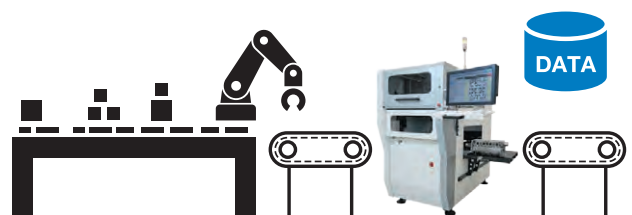
確固たる品質が求められる重要部品の角度や寸法などを短時間で検査します。検査員による検査品質・時間のばらつきを解決し、管理工数の負担を大幅に軽減します。また、短時間で検査できることから、抜き取り検査を全数検査への変更も可能です。結果の記録も詳細データ化されるため、検査トレーサビリティの実現が可能です。



JUKIの事業

2. 製造ラインでのインライン検査化

外観検査工程の製造ライン内でのインライン化ができ自動化を図れます。検査マシンが取得した情報で、品質管理、稼働状況モニタリングなどの工程の見える化、また、ご使用のシステムと連携させることにより工場の品質改善にもつなげられます。



TOPICS

XTIA社との協業で 「ハイブリッド外観検査機」を製品化

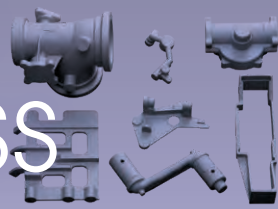
2020年2月よりXTIA(クティア)社との協業で進めてきた自動車部品を自動検査する装置を4月にリリースしました。

JUKIの2D画像認識技術を搭載した高速自動検査機とXTIAの光コム測定レーザを組み合わせた装置で、従来は目視検査に頼らざるを得なかった複雑な形状の部品検査をインラインで自動化できます。また、キズ不良の位置、長さ、面積、深さも計測できるようになり高精度な検査を実現します。



自動車のエンジン部品や機械部品を検査する「ハイブリッド外観検査機」

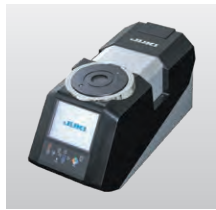
GROUP BUSINESS



Products (受託開発・製造事業)



受託製造パーツ例



分光測色計「AY555」



鋳物スピーカー
(サンプル製造)

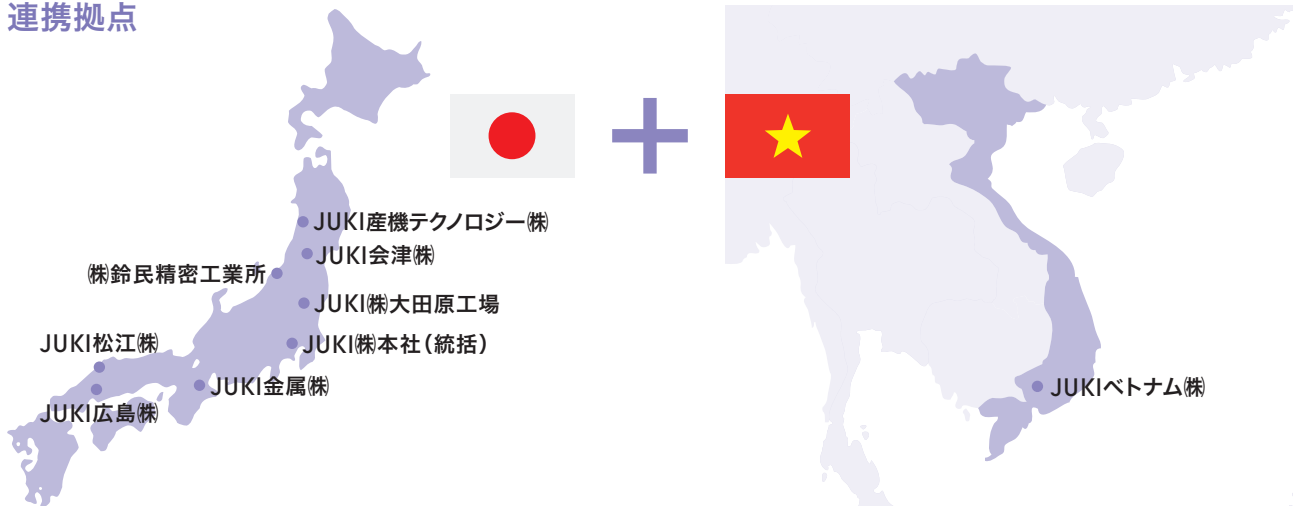


シール貼りロボット



小型マシニングセンタ

連携拠点



「技能者」+「開発・製造装置」+「開発・生産ノウハウ」+「材料」の4つの総合力で製造業のお客様をサポート

JUKIの製造会社のものづくり力を有機的に結集連携させた事業です。主要製品である工業用・家庭用マシン、チップマウンタの設計・開発から部品製造、製品組み立てを行う中で育まれた開発力や精密加工、プレス・板金加工、銑鉄铸件、精密铸造、金型製造など、幅広く高度なものづくり力を有しています。グループ事業はそれぞれの工場が得意とするものづくり技術を生かし、進化・応用させ、光学機器、OA・FA関連機器、医療用機器、航空機部品など、幅広い分野でお客様のご要望に応えた部品やユニット製品として具現化しています。

マルチセレクト製造

開発	設計	試作	自動化
金型	板金	鍛造	铸造
アッセンブリ	組立	ロストワックス	MIM
精密加工	素材	熱処理	表面処理
溶接	塗装	樹脂成型	海外調達



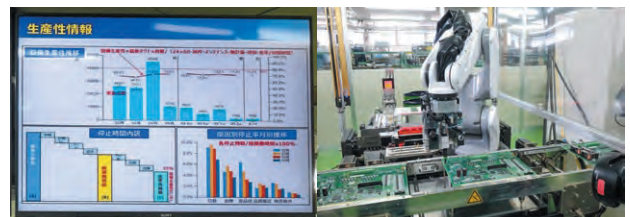
Customer Solutions

1. ワンストップで行う生産体制

企画・開発、設計、素材、加工、組立、検査までの製造プロセスをワンストップで行います。JUKIグループの人・設備・方法・材料をフル活用し、多品種少量生産の大物・小物から、ものづくり全体のプロセスをまとめた「まるごと製造」まで、お客様のニーズに適したマルチセレクト製造で付加価値の高い製品を提供します。

2. 製造の自動化装置、ラインの構築 (エンジニアリング)

JUKIでは、マシンやマウンタの開発・設計で培った技術を基に、IoTやロボット化など、自社工場のスマート化を進めてきました。これらの知識・経験を駆使し、様々な要素技術を集約させ、重労働作業や単純反復作業のロボット化や生産性の高いラインへの改善や生産の見える化など、ハード・ソフトの両面からお客様の課題解決をサポートします。



3. 製造工程をトータルサポート

お客様のご注文に基づき、JUKIが製造工程を一元管理いたします。お客様は煩雑なサプライヤー管理から解放され、他の重要な業務に集中することができます。手間や人件費の削減だけでなく、連携ミスやタイムロスなどのリスクも軽減され、短納期にも対応できる体制が確立しています。

TOPICS

(株)キャストと精密铸造事業を中心に業務提携

精密铸造において国内トップの「(株)キャスト、以下、CASTEM」と2021年4月1日に業務提携契約を締結し、事業拡大や新規事業創出に向けた協業を開始しました。

グループ事業の連携拠点のJUKI会津(株)で精密铸造(ロストワックス)や金属粉末射出成形(MIM)を展開しており、原料の共同購入や生産ノウハウの相互活用、双方の強み(JUKI:チタン合金などの加工、CASTEM:セラミック加工)を組み合わせることにより、より多くのお客様のニーズに応えることが可能になりました。



JUKIとCASTEMとの共同記者会見
(左から2番目がJUKI内梨社長、3番目がキャスト 戸田代表取締役)

グループ事業／受託開発・製造事業

設備・技術を生かして「モノ・コト」づくり ～One Stop Solution～

JUKIグループの技術・設備・人員を活用し、金型・素材から開発・組立・検査まで製品開発・製造プロセスを丸ごとご提供します。多種多様な選択肢の中からお客様にとって最適なプロセスを一括でご提供します。

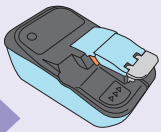
ものづくりの コア技術	設計・開発	生産技術	金型設計・製造	鋳物 (P・F・C)	ロストワックス	MIM	基板組立	熱間鍛造	機械加工	プレス加工	板金加工・溶接	表面処理	ドライコーティング	熱処理	塗装	組立	エレクトロニクス
JUKI産機テクノロジー	①	②	●				●		③	●	●				●	④	⑤
JUKI会津			●		⑥	●								●			
鈴民精密工業所			●					●	●	●				●			
大田原工場	●	⑦							⑧			●		●	●	●	●
JUKI金属				⑨													
JUKI広島			●						●	●	●						
JUKI松江	●	●							●			●		●	●	⑩	●
JUKIベトナム	●	●	●		⑪				●				●	●	●	●	

各拠点の開発・製造技術を融合した受託製品事例

JUKIのものづくり技術を生かして受託した部品・ユニット製品の事例

① ④ 永年育んだ開発力～製造力を生かして、
腹膜透析用 無菌接合装置の開発と製造を受託
(JUKI産機テクノロジー)


メカ・エレキ・ソフトの
総合開発力
+
マウント製造で
培った製造力
+
医療分野の
ISO13485を取得
+
メンテナンス体制



医療機器の
開発と製造

⑨ ⑩ 2社の技術力を融合して、
産業用ロボットのパーツ製造を受託


鋳物鋳造技術
(JUKI金属)
+
加工・塗装技術
(JUKI松江)



産業用ロボットの
パーツ製造

⑥ ⑪ 2社の連携で
コストパフォーマンスに優れた
自動車分野のパーツ製造を受託

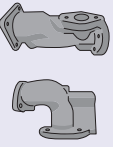
ロストワックス製法
(JUKIベトナム)
+
検査技術
(JUKI会津)



自動車分野の
パーツ製造

⑦ ⑧ ⑨ 2社の技術力を融合して、
船舶エンジンパーツ製造を受託


鋳物鋳造技術
(JUKI金属)
+
加工技術
(大田原工場)



船舶エンジン
パーツ製造

③ ⑨ 2社の技術力を融合して
鉄道車両のパーツ製造を受託

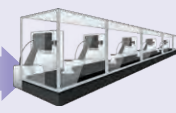
鋳物鋳造技術
(JUKI金属)
+
機械加工
(JUKI産機テクノロジー)



鉄道車両の
パーツ製造

② ⑤ 自動車を生産する設備の自動化ライン
の一部を受託(JUKI産機テクノロジー)

生産技術
+
エンジニアリング



自動車関連設備

安全・衛生製品取扱い

Withコロナ、Afterコロナ社会に対応 ～Save the factory and operators～

グループ事業では、オフィスや工場で役立つ安全・衛生製品を取り扱っています。コロナウイルス感染防止関連商品から、重労働作業をアシストする商品まで、従業員の皆さまが安全に健康的に働く環境を整備するお手伝いをします。

仕入れ商品例



次亜塩素酸水溶液生成装置PH-600
(製造・販売元: ヴィータ(株))



無人警備・消毒ロボットPATORO
(製造・販売元: (株)ZMP)



空気循環式紫外線清浄機
エアリアコンパクト
(製造・販売元: 岩崎電気(株))



マッスルスーツEvery(エブリイ)
(製造・販売元: (株)イノフィス)

JUKIにて生産を行う商品例



パーテーション
(大田原工場)



くまさんパーテーション
(大田原工場)



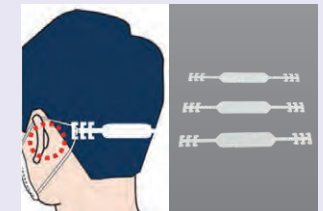
防護服
(大田原工場)



フェイスガード
(大田原工場)



足踏み式消毒スタンド
(JUKI産機テクノロジー)



マスクバンド
(JUKI会津)

JUKIの事業

スリープバスター ドライバーの 安全な走行をサポート

スリープバスターは、過労運転防止や交通事故の低減に貢献する装置です。

運転座席にセンサーパッドを装着し、パッドに内蔵されたセンサーが、運転者の上体に発生する生体信号を常時とらえ解析。運転者の疲労度合いを判定し、集中力の低下や体調の急変(入眠予兆信号等)を画面と音で警告します。さらに、このデータを「ヒュータコ」という専用ソフトを用いてパソコンに取り込むことで、運行時間内の運転手の緊張・集中・覚醒水準の低下や疲労度合いを分析できます。



データエントリーシステム 情報処理に特化した JUKI独自のシステム

データエントリーシステムは、数値や文字などの大量のデータをスピーディに入力できるように工夫された装置です。

生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界の「機密情報や個人情報の保護」、「OCR処理と連携したイメージエントリーの効率向上」、「高速通信インフラを利用したデリバリーレス」など、情報処理産業のニーズに対応するため、処理機能強化や人的ミスを軽減する装置の開発を進めています。



CUSTOMER BUSINESS



最強のカスタマーサポートとパーツ供給で世界中のお客様に安心をお届け

JUKIの主力事業である工業用ミシンと産業装置のお客様に、ご購入いただいた製品を最適な状態でご使用いただけるように、パーツの迅速なご提供や設備の予防・予兆保全を含めたアフターサービスを行う事業です。

工業用ミシンにおいては、約10万種類のパーツを在庫し、お客様の需要にタイムリーにお届けする体制を整えています。また、多品種の中から欲しいパーツを即座に注文できるように、パーツwebサイトや点検サポートシステムを公開しています。

産業装置においては、交換推奨パーツのご提案やオーバーホールなどのメンテナンスの提案活動を行い、製品を長くご愛用いただくための、未然保守活動を行っています。



パーツ供給

- 在庫最適化管理システムを取り入れた迅速なパーツ供給体制
- 欲しい部品がすぐに見つかるパーツwebサイトの運営



修理、保全

- 迅速な修理サポート
- 設備予防・予兆保全管理の運用
- 点検サポートシステムの提供
- 会員制の技術サポートサイトの提供



教育支援

- 各種講習会の実施
- トレーニングの提供
- e-ラーニングの運用

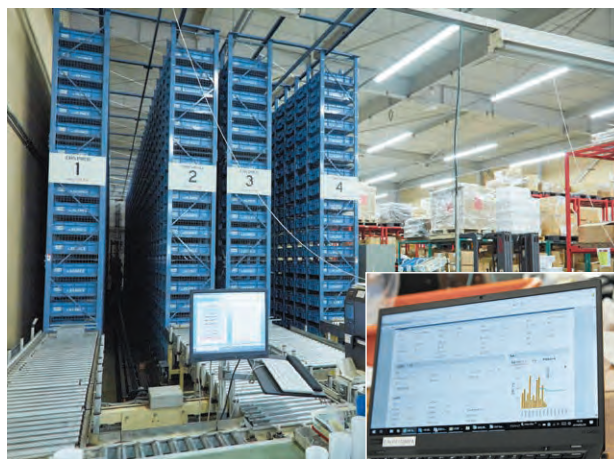


Customer Solutions

1. 工業用マシンパーツの迅速な提供と 点検サポートシステムの無料公開

2,000機種ある工業用マシンのパーツ在庫体制を整えるとともに、在庫最適化管理システムを導入し、即納率を向上させる取り組みを行っています。

また、お客様自身が行う日常点検をアプリにて無料公開しています。日々のメンテナンスを正しく行うことで、縫製の品質を維持し、マシンのダウンタイム・故障の低減、耐久年数の伸長が図れます。また、アプリの記録から自動判定される「簡易診断機能」を活用することにより、部品の交換時期も予測できるため、在庫と照合し、必要な個数を事前に注文できます。



2. 産業装置の安心・最強のカスタマーサポートと 遠隔サポート

JUKIでは修理技術者のレベル調査を定期的に行い、全世界の販売・サービス拠点にスタッフを配置しています。難度の高い障害など、現地の保守担当者では解決ができない場合は、オフィスにて熟練技能者が遠隔でサポートするシステムを導入しています。スマートフォンやスマートグラスを活用し、リアルタイムにオフィスと現場で情報を共有し、停止した製造ラインをスピーディに復旧させます。



TOPICS

アパレル縫製業界向けのeラーニングを開設

長年培ってきた縫製やマシンの保全ノウハウを生かしたアパレル縫製業界向けのオンライン学習サイト「JUKI eラーニング」を開設しました。

JUKIは、工業用マシン事業へ参入後、製品の販売とあわせて、縫製工場の生産性・縫い品質の向上、メンテナンス技術などをお客様に提供させていただきセミナーや集合教育などを60年以上継続実施していますが、これらのメニューをeラーニングとして提供します。第一弾として「縫製オペレーター育成コース」を2020年11月より提供開始しました。



マシンの種類や原理、針と糸との関係、洋服などが完成するまでの流れなど、幅広く知識を深めることができる「縫製オペレーター育成コース」

JUKIは“モノコト”の両面からお客様の課題解決に取り組んでいます。今後も、一歩先をいくソリューション提案を通じ、強力なパートナーであり続けることを目指します。

工業用ミシン



広東省戴莉服装有限公司
<http://www.daililingerie.com/>
董事長
翁耿楷 さん

私たちの会社は、おしゃれなファンデーションを3,000人の社員で製作し、東南アジア、南アフリカ、オーストラリア、カナダなどの様々な国のお客様へお届けしています。

創業から40年以上の歴史がありますが、新しい技術の追求や設備の開発、管理レベルの向上に取り組み、時代を超えて成長できる会社を目指しています。そのために、日々の改善活動や工程・技術関連の教育も欠かさず行っています。

JUKIさんとは2018年からの取引になりますが、高級ファンデーションに求められる高い縫い品質を実現するミシンの機構やデジタル化技術などの革新的な性能に満足しています。

さらに、私たちの工場改革の姿勢に共感をいただき、スマート化のための設備やシステム、またその手法について、親身になり力を貸していただきました。今も「改善」のための様々な提案を定期的を受けています。

今後も私たちが求めるニーズを実現する製品、システム、サービスを追及し、さらに生産性の高い工場を実現するためのお手伝いをお願いします。

“「スマートな縫製工場」の実現には、JUKIのサポートが不可欠です”



「DDL-9000C」をはじめとした、様々なデジタルミシンを導入。稼働情報などをリアルタイムに確認できるため、改善活動に繋がっている

家庭用ミシン



手芸作家
<https://yunyuns.exblog.jp/>
猪俣 友紀 さん

ブログで公開していた趣味としてのソーイング作品が評判を呼び、手芸店での講師を経て、現在は服飾系学校の講師をはじめ、さまざまな団体と連携して、作り方を教える仕事を中心になりました。

主にバッグや布小物品の制作や講師をしています。丈夫で使いやすく、長く愛用できる実用性の高いデザインを心がけています。

JUKIさんのミシンとの出会いは、しっかり縫えるミシンを探していた時に、「ボックス送り」機構を推奨されたのがきっかけです。現在、職業用ミシンなど4機種を活用していますが、厚地、薄地、段部など、ストレスなく縫える縫い心地にとっても満足しています。

私のベースの活動として、SNSでの発信を続けていますが、JUKIさんも同様の活動を推進されています。2020年はコロナウイルスの影響でリアル講習会ができない状況となりましたので、オンライン講習会で連携をさせていただきました。初の試みで試行錯誤の中での開催となりましたが、受講者の反応をリアルタイムで感じられる有意義な時間となりました。

これからはロケーションに関係なく参加できるオンラインの時代になってくると思いますので、積極的に情報発信を行いながら、ともに切磋琢磨してミシンやソーイングのファンを増やしていきましょう。

“ミシン、ソーイングの魅力を伝えるSNS活動で共鳴しています”



様々な「手作り」の本を出版。自分好みにアレンジできるように、わかりやすい表現に気を配っている

産業装置



恩斯邁電子(深圳)有限公司
<http://www.msi.com>
副總經理
傅國聯 さん

私たちの会社は、電子機器メーカーMSI(Micro-Star International)の中国工場です。2000年に設立され、約4,200名が働いています。ここでは主に各種マザーボードやパソコン、サーバーを生産し、その製品は台湾を中心に全世界で使用されています。

MSIのマザーボードは世界トップクラスのブランドであり、私たちはその製品を支える重要な役割を担っています。「優れた製品、優れた品質、完璧なサービス、顧客満足」の経営理念のもと、社員教育にも力を入れています。2009年には中国における先進的な優良企業に認定されました。

手作業で基板上に挿入していた、後工程の自動化の実現に向け、2016年にJUKIさんの異形部品挿入機を評価したのがお取引のきっかけです。現在では80台以上導入しています。JUKI製品を選んだ理由は、タクトが早く、安定した稼働と品質の向上が、私たちの目指す自動化に一番適していると判断したからです。後工程だけでなく、ライン全体の生産性向上にも大きく貢献しています。引き続きJUKIさんにはチームの一員として、手厚いサポートとさらなる技術力の向上に努めていただきたいと思います。

“自動化工場の実現に
 欠かせないパートナーです”



恩斯邁電子(深圳)有限公司 生産現場

グループ事業



株式会社エイアンドティー
<https://www.aandt.co.jp/>
購買部湘南購買グループ リーダー
田中 剛一 さん

私たちの会社は、臨床検査用の製品・システムの開発・製造・販売から検査室改善のコンサルティングまで一貫して手がける総合技術メーカーです。臨床検査情報システムは業界トップクラスの実績を誇り、大型検査装置への組込モジュールや検体検査試薬は中国や欧米など海外市場へも展開しています。

企業理念である『医療を支え、世界の人々の健康に貢献する』のもと、品質(Q)、価格(C)、納期(D)、環境(E)の4つの要素をトータルで考え、価値の高い製品・サービスを提供できるように努力しています。

2017年の初めてのお取引で“冷蔵ストッカー RS”の開発・製造という大きな案件をJUKI産機テクノロジーさんにお任せしました。実装装置の開発・製造を手掛けられており、その技術力は高く評価していましたが、工場に初めて伺った際、働いている方々の挨拶、仕事に対する姿勢が素晴らしく、ここなら信用できると確信しました。また、当社のマザーファクトリー(江刺工場)がある岩手県奥州市と隣接している点も選択理由の一つでした。設計段階からお互いの技術者が行き来し、情報や技術を共有する中で信頼・協力関係が築かれ、お客様に満足していただける製品を作り上げることができました。

今後も当社が求めるQCDEをベースに、今のレベルに満足することなく、品質のさらなる向上を期待しています。

“QCDEをベースに開発から
 製造まで任せられる強い味方です”



冷蔵ストッカー RSを接続した
 検体検査自動化システムの構築例

冷蔵ストッカー RS



「お客様第一主義」を実践する 高度な技術開発力



お客様が求められる生産性向上、省人化、脱技能化、働きやすさ、品質向上、省スペース化などの課題にお応えするため、製品単体の開発のみならず、自動機・自動化システムに取り組んでいるのがJUKIの技術開発です。リーディングカンパニーとして、多くの「世界初」の機構を生み出してきています。

最新の技術の追求と合わせて開発のベースになるのは、製品の使いやすさや、省電力などの環境配慮です。1日中稼働するからこそ、ストレスなく使っていただける製品を作りたい、JUKIのミシンは工場の管理者のみならず、現場の使用者からも圧倒的な支持を得ています。

また、海外のお客様のニーズにスピーディに対応するため、中国、ベトナム、アメリカ、ポーランドにも開発拠点を設置し、ハイレベルな要求にきめ細かく対応しています。

TECHNOLOGY & DEVELOPMENT

国内開発拠点



海外開発拠点



JUKIの技術開発

JUKI製品の多くは生産財のため、世界中のどんな環境下でも安定して稼動することが求められています。

JUKIでは、強度や安全性、耐久性などに問題が発生しないように、3次元CADや最新の試験設備を使い、力、熱、振動、電磁放射など、いろいろな物理現象を仮想的に発生させて評価する実験を繰り返しています。



電子顕微鏡での材料研究



EPMAでの元素分析



ビッカース硬度計での硬さ試験



静電試験器を使ったテスト



加振機を活用しての振動試験



製品梱包落下試験



チップマウンタの耐久試験



工業用ミシン縫いテスト



半無響室での騒音評価

TOPICS

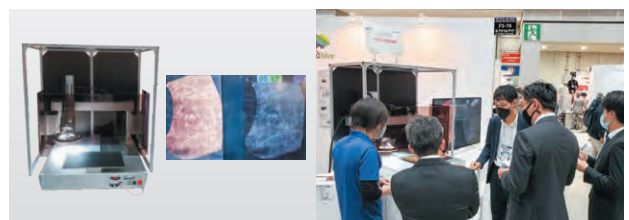
オープンイノベーションで活躍するイノベーターを表彰する『OPEN INNOVATION AWARD 2019』で年間アワードを受賞

日本最大級の「オープンイノベーションプラットフォームAUBA」を運営するeiicon companyが、活躍しているイノベーターを表彰する『OPEN INNOVATION AWARD 2019』で、JUKIは年間アワードを受賞しました。これは、積極性・コミットメント・PRの明確度・提携内容を総合的に判断し、最も優秀な企業に贈られる賞です。JUKIはロボティクススタートアップとの協業（縫製工程の自動化へチャレンジ）や社内での推進活動などが評価されました。



「ファッションワールド 東京2020秋」へ出展

世界中から約500の企業が一堂に会する、日本最大のファッション展示会「ファッションワールド東京」に、JUKIは、ニュージーランドにおいて皮の等級検査AIソリューションを展開するMindhive社と共同出展しました。今回は、「革・生地自動外観検査装置」の市場ニーズ調査を目的に展示しましたが、革製品を取り扱うお客様だけでなく、アパレル生地を扱うお客様なども高い関心を寄せられていることがわかりました。今後も、製品化に向け、取り組みを進めます。



革・生地の自動外観検査装置

2020年10月 東京ビッグサイトにて

技術開発力

JUKIのコアテクノロジー

JUKIのコア技術は、品質を安定させる、使いやすさを追求する、作業性を向上させる、消費電力を削減するなど、製品に直結した技術の数々です。多様化・高度化する市場ニーズを的確にとらえ、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる機能を生み出しています。

工業用ミシンのコア技術

デジタル制御

縫い目調整のデジタル化とIoTを活用したデータ転送

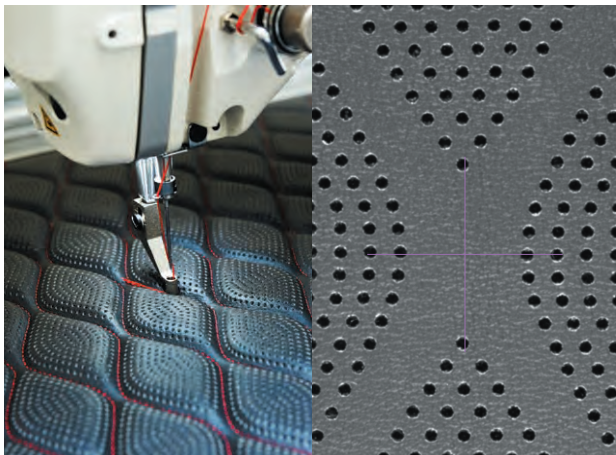
従来、勘や経験に頼っていた送り歯高さ、送りピッチと軌跡、押え圧、上糸のテンションの5つの“縫い目”の調整機能をデジタル化し、数値で記憶できるようにした技術です。調整後のデータは専用アプリを入れた通信機器に記憶させることができ、近距離無線通信NFC機能により、パネルにかざすだけで別のマシンへのデータ転送を可能にしました。縫製ラインのミシンの設定が容易になり、グローバルでの品質の安定化が図れます。



DDL-9000Cのデジタル制御

画像認識技術(マシン)

生地の寄り量とプログラムデータとのずれを画像処理にて補正
パーフォレーション生地など、柔らかく伸び縮みする生地に対して、縫うことにより生じる生地の寄り量を生地上の目印となる部分からカメラで測定し、基本となるプログラムデータとのずれ量を算出・補正した後、次の縫い目を確実に目標とする場所に形成することで、質の高い安定した縫い目を実現できます。



AMS-251の画像認識技術

アクティブテンション

安定した「縫い」を実現するため糸の張力を動的に制御

上糸と下糸の張力を絶えず最適化し、美しく安定した縫いを実現する技術です。特殊なソレノイドを電流で微細にコントロールすることで糸調子皿を開閉させ、最良の糸調子を生み出します。厚地・薄地・伸縮などの素材変化による制御、縫いトラブルの防止、模様縫いの制御など、多方面で活用しています。



AMSにおけるソレノイド制御

ほつれ防止技術

縫い終わりのほつれを阻止するため糸結びを作る

縫い終わりに結び目を作る技術です。機構の違いは多少ありますが、JUKIの多くの製品に搭載されています。偏平縫いマシンにおいては、針糸を専用のフックで斜めに引いてループを作り、そこに針を落とすことにより擬似的な結び目を作ります。専用フックの待機位置、針停止位置などの最適化を図り、タイミングを制御しています。



MF-7900における結び目を作る機構

鳥の巣防止・残短技術

糸摘み作業をなくし、生地裏の縫い品質を向上

縫い始めに糸が鳥の巣状態になるのを防止し、縫い終わりの糸を極限まで短く切断する技術です。縫い始めに上糸を糸摘み装置で捕捉し、これを縫い終わりまでキープします。縫製完了後、通常の糸切り動作の後、残短用のメス機構で縫い終わりの上下糸、縫い始めの上糸を短く切断し、残糸は吸引します。



LK-1903BBIにおける残短機構

その他のコア技術

送りの上下駆動

ドライ技術

省エネルギー技術

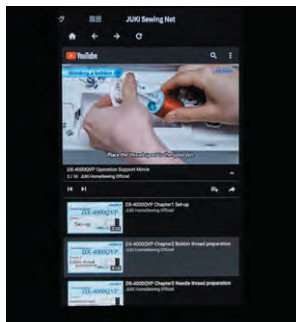
パーフェクトステッチ

家庭用ミシンのコア技術

JUKI Sewing Net

本体に無線LANを搭載し、インターネットを閲覧できる技術

インターネットを介して、ミシン本体内のソフトウェアのアップデートや、タッチパネル画面上で視覚と音声によるガイダンス(youtube、Instagramなど)の視聴、取扱説明書のWEB閲覧ができる技術です。タッチパネルは「静電容量方式」を採用し、スマートフォンと同様のタップやスワイプで操作ができます。



HZL-UX8

自動糸調子

模様の種類に応じた上糸の張力を実現

上糸の張力を、縫い模様に応じて自動調整する技術です。振り幅、送り量から決定した圧力を、内蔵された縫い模様数351種類と文字模様のそれぞれに対して、上糸に最適な糸張力を与えます。専用のステッピングモーターを搭載することにより、糸調子カムの回転角度をデジタル制御しています。



HZL-NX7

その他のコア技術

ボックス送り

完全自動糸掛け(イージースレッダー)

フロートモード

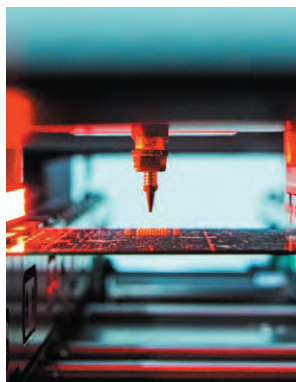
ピボット機能

産業装置のコア技術

匠ヘッド(マウンタ)

高速性と汎用性を両立

搭載する部品の高さに応じてヘッドを固定したままレーザ認識装置のみを上下動させる技術です。部品認識・搭載を最適な高さで行うことができ、高速搭載を実現しました。これにより部品の高さに応じたヘッド仕様は1種類となり、高速性と汎用性の両立を実現しました。

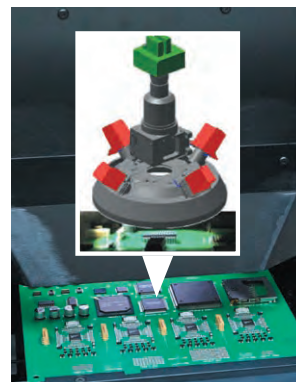


RS-1R、JM-100の匠ヘッド

検査機の高速画像処理システム

DLP方式投影装置で鮮明に撮像

プリント基板上に部品が正確に搭載され、ハンダ接合しているかを3Dで検査する技術です。投影・撮像を行う3DヘッドユニットにDLPプロジェクターを4方向に配置し、32パターンの縞模様の光を部品に投影することにより検査精度が向上しました。投影速度の高速化、撮像データの取り込み、演算処理の高速化により、高速で鮮明な検査を実現します。



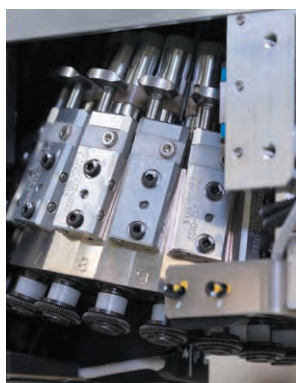
RV-2-3Dの画像認識

JUKIの価値創造

プラネットヘッド(マウンタ)

独自技術の回転型ヘッドで、小型部品の高速搭載を実現

プラネットヘッドは回転型ヘッドのことで、ヘッドが回転しながら部品を吸着・搭載できるJUKI独自の技術です。部品の吸着、搭載、位置決めを同時に行うことができ、小型部品を高速で搭載することができます。ヘッド全体が回転するとともに、16個のノズルを自転させることができる独自の機構です。

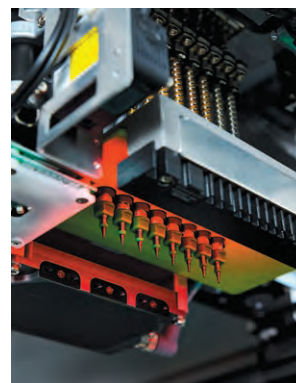


RX-7R に搭載されたプラネットヘッド

レーザ認識技術(マウンタ)

独自技術により、様々な形状の部品認識が可能

高い分解能をもつ認識ユニットをヘッドに装備し、部品に光を当て影を読み取ることで、部品の位置と角度を認識できます。これにより幅広い部品に対して安定した高精度搭載が可能で、搭載直前までの部品の吸着状態が検出できるため、部品の有無や吸着姿勢が検出しにくい極小部品などの搭載不良を防止できます。

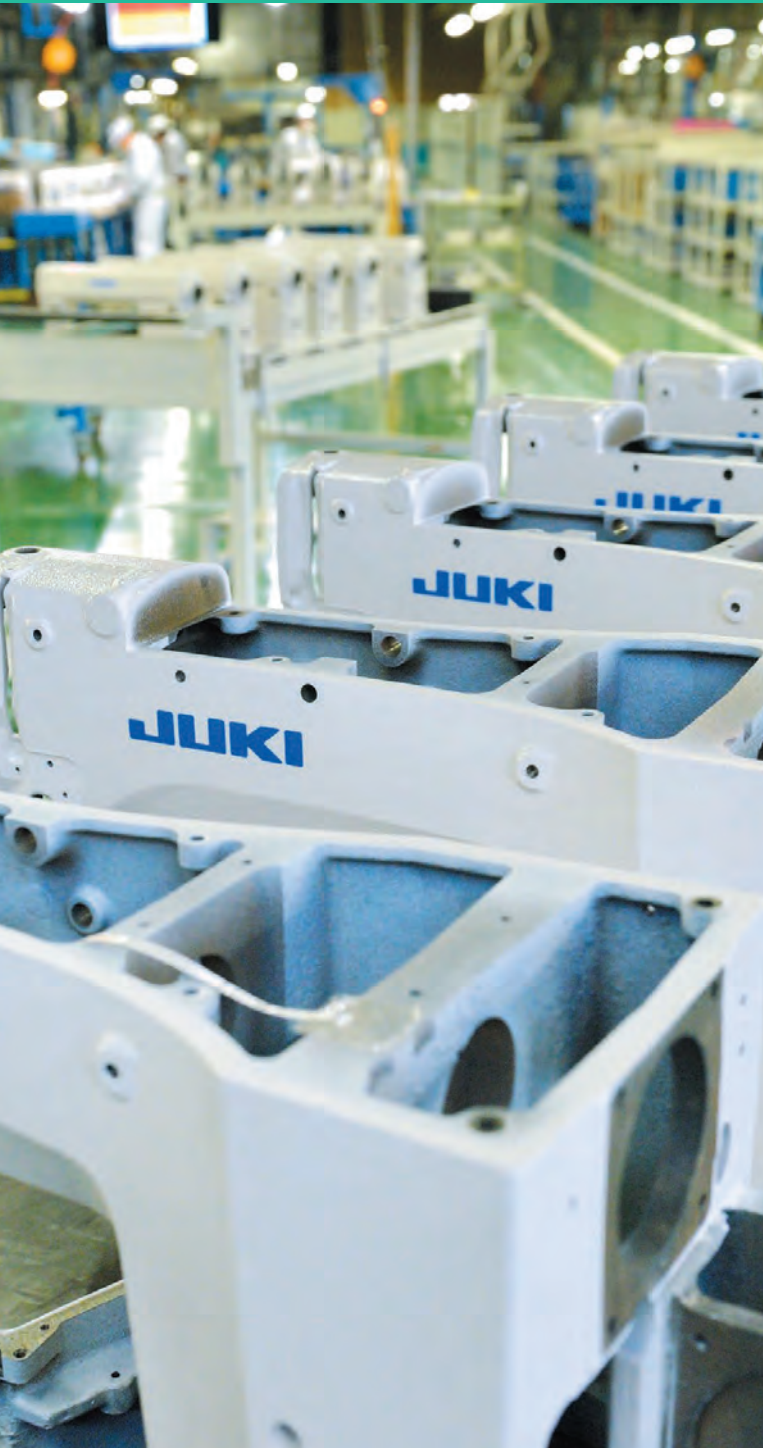


RX-7Rのレーザ認識技術

その他のコア技術

画像認識技術

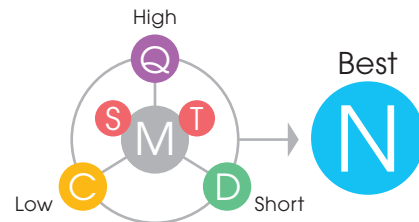
部品ベリフィケーション(CVS)



「100%良品生産」を堅守する made by JUKI のものづくり



「JUKI品質」を堅守し、ものづくりのさらなる進化に取り組んでいるのがJUKIの製造工場です。そのベースになっているのが、〈Q〉品質、〈C〉コスト、〈D〉納期、〈S〉安全、〈T〉人材育成、〈N〉新製品の「生産の六要素」です。六要素をもとに、人〈M〉を中心に管理のサイクルを回し、継続した改善活動でレベルアップを図っています。



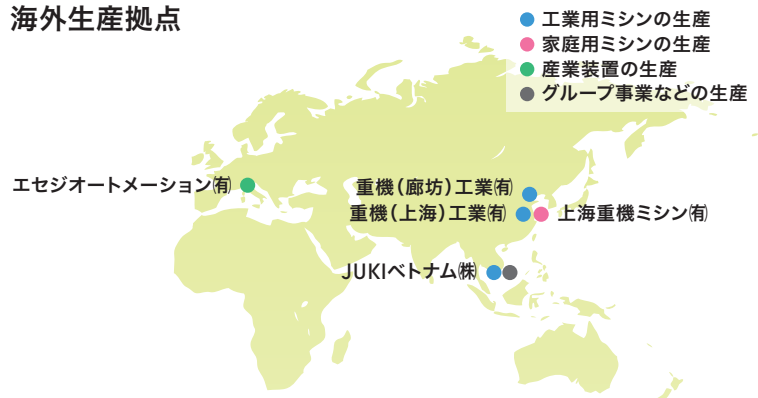
工業用ミシンの生産は、「お客様に近いところで造る」を基本に、日本・中国・ベトナムの合わせて5工場で製造しています。マザー工場である「大田原工場」で生み出された製造方法や製造工法、ノウハウなどが、グループ工場で共有化され、“made by JUKI”の製品を生み出しています。

産業装置の生産は、JUKI産機テクノロジー(株)が担っています。フレキシブルな工法開発と改良に取り組みながら、確固たる品質の製品を世界に送り出しています。

国内生産拠点



海外生産拠点



- 工業用ミシンの生産
- 家庭用ミシンの生産
- 産業装置の生産
- グループ事業などの生産

JUKIの生産力

1. デジタル生産

大田原工場(工業用ミシンの生産)とJUKI産機テクノロジー(産業装置の生産)では、組付けの手順がセルごとにタブレット画面で指示されるデジタル生産を導入。短期間での作業習熟や誤組み付け防止とライン編成ロスの削減を可能にし、安定した生産体制を確立しています。



2. 技能士育成と品質教育

ものづくりの原点は「人」づくりです。技能資格取得の推進や品質管理教育、社内検定などを駆使して、品質・コスト・納期の維持・向上に継続して取り組んでいます。また、海外工場の将来を担う人材への教育を定期的に実施。マネジメント教育を学んだ人材がJUKI品質を根底から支えています。



3. 魅せる工場への取り組み

「5S+安全+QCD」をベースに、ロボット化・デジタル化を通じて、スマート工場への取り組みを進めています。デジタル生産に加えて、フレーム加工、切粉のブロー除去、塗装のそれぞれの工程でのロボット化に加え、工程間の自動搬送システムなど、ITを活用した生産性の高い工場へと変革を進めています。



TOPICS

新興重機工業の社名変更、新工場での操業開始

工業用マシン初の海外生産工場として1995年に創業した新興重機工業を重機(中国)投資有限公司の完全子会社とし、社名を「重機(廊坊)工業有限公司」に変更しました。また、創業と同じ河北省廊坊の中の経済技術開発区に新工場を移転し2020年11月より操業を開始しました。

新工場は工程間の運搬をなくし、部品供給の距離を短縮するなど、工程の流れに沿った無駄のないレイアウトで作業効率を向上させる工夫を施しました。環境にも配慮し、天然ガスの利用、既存設備の改造、低NO_x型ボイラーの採用、生産中の排気を集中して回収するVOCsの新設、汚水処理能力(質)大幅向上など、環境負荷を低減する設備を導入しました。今後もさらなるスマート化で生産性を向上させ、また環境にも配慮した活動に取り組めます。



重機(廊坊)工業有限公司の新工場



スマート化に取り組んだ工場内

JUKI's SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



豊かな社会を創り、
未来へ手渡すために。

重要な社会課題の解決に向け、SDGs視点を踏まえた事業の展開

JUKIはSDGsへの取り組みをさらに進化させ、2050年のカーボンニュートラルの達成を目指します

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、罹患された方々の治療に当たられている医療関係者の皆さまの日々のご尽力にあらためて敬意を表します。予防ワクチン接種が我が国でも進んでまいりましたが、世界的にはまだ十分な浸透には程遠く、完全な克服には未だ時間がかかるものと予想されます。「命を守る」と「社会経済活動の復興」の両立という緊張した時期がしばらく続くことを覚悟しなければいけないと考えております。

さて、私たちJUKIは「ものづくり企業」として、企業理念の「人々のしあわせを実現し、社会に貢献する」「技術を創造し、進化させ、新しい価値を生み出す」ことを目指し、お客様から学び、お客様とともに新たな価値をつくっていく、というお客様視点で製品・サービスの提供をし続けてきました。私たちの企業活動は、SDGsが目指す社会の実現のための取り組みそのものだと考えています。

私たちは、現在の「2021年-2022年中期経営計画」で取り組む「6つの変革」(6X)のひとつとして「SDGs経営X」を掲げました。世界でトップブランドを有するグローバル企業として、事業活動を通じて「豊かで持続可能な社会」の実現に取り組めます。特に環境への配慮として、従来の「パリ協定(気候変動抑制に関する多国間の国際的協定)」の「2°C目標」に加え、2050年までのカーボンニュートラル達成も目指してまいります。今後とも、より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



清原 晃
代表取締役会長 CEO
SDGs管掌

JUKIのSDGsサイクル



JUKIグループは、社員一人ひとりが企業理念と中期経営計画にもとづいた事業活動を着実に進めることで、SDGsが目指す『豊かで持続可能な社会』の実現に向けた社会課題の解決に取り組めます。特に、気候変動をはじめとした地球環境問題が深刻度を増す中、カーボンニュートラルの達成を目指します。

JUKIのこれまでの取り組みと 未来へ向けたSDGsの取り組み

創業の理念のもと、80余年の事業活動を通じ、新興国での産業創出と経済発展に貢献してきました。
JUKIは、アパレル産業、電化・電子産業に関わる企業として、社会の課題に真正面から取り組み、世界中の人々が
“豊かな暮らし”を実現するための強力なパートナーとして存在価値のある会社であり続けることを目指します。

企業理念

- JUKIは、ここに集い、人々の
しあわせを実現し、社会に貢献する
- JUKIは、技術を創造し、進化させ、
新しい価値を生み出す

これまでの 取り組み

縫製業は比較的少ない設備投資で開始できるため、
国を興す産業としてJUKIは各国の政府機関と連携した
サポートを永年にわたり実施しています。

80余年の事業実績

ミシンは、「人」によるハンドリングで稼働させる
製品のため、怪我を防ぎ、安全に稼働させるための
さまざまな工夫を施しています。



「ミシン事業」
で新興国の
経済発展に貢献

新興国におけるトレーニングセンターの運営を支援し、
縫製工場で働く人材の育成に取り組むとともに、
各工場の生産性向上のために工場診断と
改善提案を実施しています。



「産業装置事業」
で世界のデジタル化
に貢献

基板生産装置の総合メーカーとして
電子・電化製品の回路基板の進化に対応しています。



環境負荷の
少ない技術の
創出

環境経営を宣言し、温室効果ガス排出削減や環境法令を
遵守したグリーン調達、さらに安全で環境負荷の少ない製品を
「ECO PRODUCTS」として認定する制度を取り入れるなど、
環境に配慮した事業活動を通じて、地球温暖化防止に
取り組んでいます。

ドライ化技術

未来へ向けた JUKIの取り組み

新興国のGDPを向上させ、雇用を生み出すためのパートナーとして、縫製工場が成長するためのサポートを行います。

雇用機会の創出 様々な人材の社会参加推進



労働安全衛生の確保

縫製工場で働くワーカーの健康と安全を守るための、工場全体での仕組み作りを進めます。また新型コロナウイルス感染症が拡大する中、ニーズに沿った製品やシステムでサポートします。



生産面からの 衣料廃棄ロス削減 への貢献

縫製業に関わる企業として、大量の「衣料廃棄ロス」は真正面から取り組むべき課題です。縫製品の生産を支える立場からこの課題解決に取り組めます。



電子産業の 生産性向上による 技術革新支援

IoT、AIなど、未来社会をデザインする産業を技術革新で支えます。



環境負荷の低減

パリ協定(気候変動抑制に関する多国間の国際的な協定)が掲げる「2°C目標」達成に向け、CO₂排出量の削減にサプライチェーン全般において取り組みを推進します。



豊かな暮らしを 世界中で!



世界中の人々が衣服をまとい、ファッションを楽しむ豊かな暮らしの実現



IT・AIを活用した便利で快適な暮らしの実現



カーボンニュートラル実現による気候変動を防ぐ世界の実現

外部環境・リスクと機会の認識

JUKIの事業を取り巻く外部環境は常に変化しています。その変化の中に存在するリスクと機会を分析し、JUKIの重点課題に落とし込みました。重点課題は、2022年度にゴールを迎える中期経営計画の事業施策に反映させ、取り組みます。

外部環境の認識

新興国による人口増加

▶ 働く機会への要望の高まり

貧富の差の拡大

▶ 貧困の連鎖

大量生産、大量廃棄問題

▶ 社会のサステナビリティ意識向上

先進国での少子高齢化の進展

▶ 消費意欲の減退や
消費行動の変化

サステナビリティへの意識の高まり

▶ 環境負荷低減

貿易摩擦の激化

▶ サプライチェーンの分断

技術革新の加速

▶ IoT、AIなどの新技術の進化

新型コロナウイルス感染拡大

▶ 社会や経済の変化に伴う
事業と組織の再構築

ダイバーシティの推進

▶ 多様な人材の活用

安定的な成長基盤の確立

▶ 社会的信頼や企業価値の向上

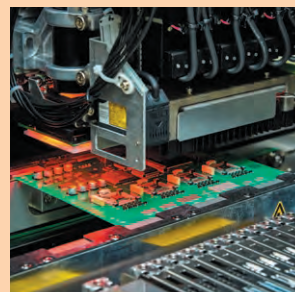
JUKIの視点(リスクと機会)



- 新興国における様々な顧客ニーズへの対応遅れ
- 新興国での雇用創出、拡大を支援する製品/差別化サービスの提供
- 労働力不足を補う自動化やデジタル化等の提供



- 事業活動を脅かすリスクの増加
- BCP(事業継続計画)の高度化



- 新技術の台頭による既存ビジネスモデルの陳腐化
- 新技術を活用した革新的な製品・サービスの提供



- 環境負荷低減に向けた取り組みの遅れによる事業機会の損失
- 大量生産/大量消費時代の終焉
- 特定の国での生産/調達リスクの顕在化
- サステナビリティへの取り組み強化による新たな事業創出/製品の開発



- 社会的要請の対応遅れによる事業リスクの増加
- ダイバーシティの推進による企業価値の向上
- 法令遵守による様々な事業リスク回避

JUKIの施策

JUKIの取り組み内容

社会課題の解決

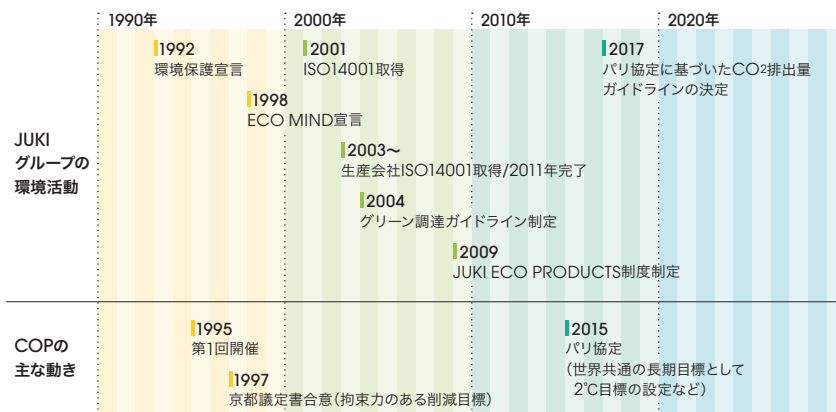
お客様工場 に対する 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 新興国における雇用新規創出 	雇用機会の創出 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 職業教育支援を通じた労働者人口増加と労働者の待遇改善などの実現 	様々な人材の 社会参加推進 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全・安心な縫製工場構築のための支援 	労働安全衛生の確保 
	<ul style="list-style-type: none"> ● 縫製工場、実装工場のスマート化、技術革新支援 ● 「短期間で良質な製品をローコストで生産する工場」の実現 ● 適量生産を実現する仕組みの提供 ● 実装工場における前後工程インフラの改良 	生産面からの 衣料廃棄ロス削減 への貢献  電子産業の 生産性向上による 技術革新支援
JUKI内での 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業活動を通じた環境負荷低減活動 ● 製品ライフサイクルにおける環境配慮 	環境負荷の低減 
	<ul style="list-style-type: none"> ● ダイバーシティ推進による組織の活性化 ● 働き方改革、やりがいの促進、人材教育 	働きやすい環境整備 
	<ul style="list-style-type: none"> ● コーポレート・ガバナンス体制の充実 ● コンプライアンスの徹底およびリスクマネジメントの強化 	ガバナンスの強化 

環境負荷の低減

温室効果ガス排出削減や環境規制の順守、また安全で環境負荷の少ない製品の開発など、事業活動を通じ環境負荷低減に取り組んでいます。

JUKIの環境負荷低減活動のあゆみ

JUKIは環境経営を宣言し、これまでも社会的要請に応えるため、環境への配慮、温室効果ガス排出削減や地球温暖化防止等の環境規制を順守し、安全で環境負荷の少ない商品をお客様に提供しながら「パリ協定(気候変動抑制に関する多国間の国際的な協定)」が掲げる「2℃目標」達成に向けCO2排出量の削減に取り組んでいます。



ECO MIND宣言

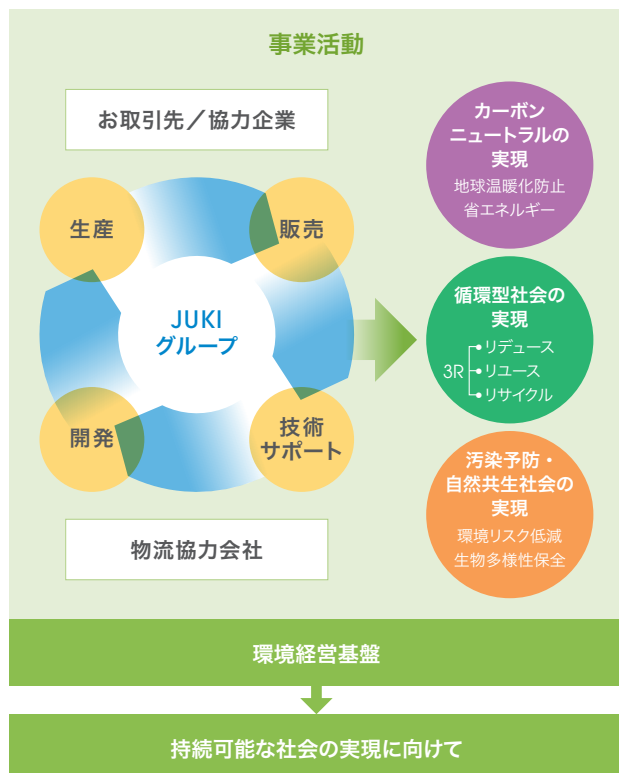
環境理念

JUKIグループは、企業活動が広く地球環境と密接に関わっていることを認識し、

1. 環境に配慮した企業活動により、地域と社会に貢献する。
2. 環境にやさしい製品を世界の人々に提供する。
3. 持続的な活動を通じて、よりよい地球環境を次世代にひきつぐ役割を果たす。

環境行動指針

1. 事業活動全般にわたって省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に努める。また3R(リデュース・リユース・リサイクル)の実践により資源の有効利用を図る。
2. 環境への影響に配慮した企画、研究、開発、調達、生産を行い、より環境負荷の少ない製品を提供する。
3. グローバル企業として、事業展開する全ての国や地域の特性に応じた環境保全活動を通して、その国や地域に貢献する。
4. 環境関連法規制及び同意するその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染を予防する。
5. 環境情報の公開を積極的に行う。
6. 教育・啓発活動を通じ、社員一人ひとり「環境意識」の向上を図り、環境保全活動を実践する。



ECO MIND



このマークはJUKI環境理念に基づいて作成したオリジナルマークです。よりよい地球環境を未来のこどもたちに引継ぐ決意を表しています。社内ではecoちゃんのお愛称で親しまれており、色々なバージョンがあります。



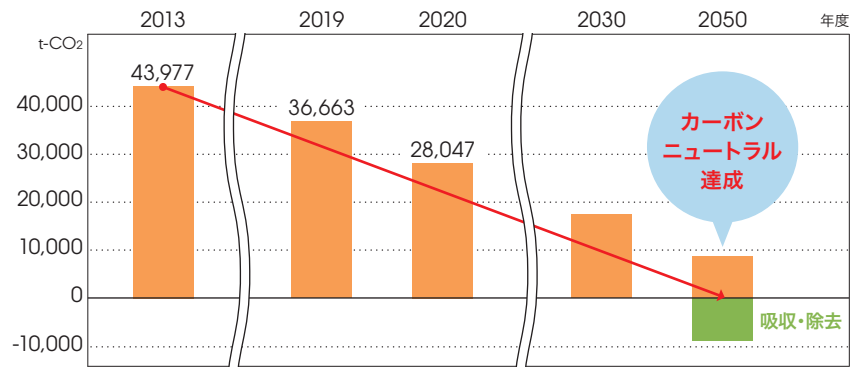


「カーボンニュートラル」の削減目標

気候変動をはじめとした地球環境問題は深刻度を増しており、JUKIはこれまでの取り組みをさらに高め、2050年のカーボンニュートラルの達成を目指します。

世界規模の社会課題に向き合い「豊かで持続可能な社会」の実現に貢献していくことで、社会にとって存在価値のある会社であり続けたいと考えています。

CO₂排出量の削減目標



サプライチェーン、ライフサイクルにおける「カーボンニュートラル」の取り組み

調達/ 物流		<ul style="list-style-type: none"> ●グリーン調達の強化 ●リサイクル材の使用率向上 ●調達時の物流方法の改善
開発		<ul style="list-style-type: none"> ●省エネ製品の企画・開発のさらなる推進 ●環境負荷の少ない材料の活用 ●製品の重量・サイズのコンパクト化
生産		<ul style="list-style-type: none"> ●より低炭素な燃料、水素やバイオマス、合成燃料などへの転換 ●使用燃料の非石化燃料化 ●より効率の良いスマートな生産方法の確立
建物環境/ 働き方		<ul style="list-style-type: none"> ●建物内で使用する機器の省エネルギー化製品への置き換え ●太陽光パネルの導入推進 ●働き方改革・業務改革による効率化向上 (RPAの推進など)
通勤/ 出張		<ul style="list-style-type: none"> ●リモート会議やテレワークを活用した通勤・出張の削減 ●スマートグラスなどを活用したサービスへの改善 (出張の削減)
製品/ サービス		<ul style="list-style-type: none"> ●お客様工場のスマート化、省エネルギー工場へのサポートやコンサルティング ●中古機器ビジネスの深化 ●販売後の製品や部品のリサイクルシステムの構築

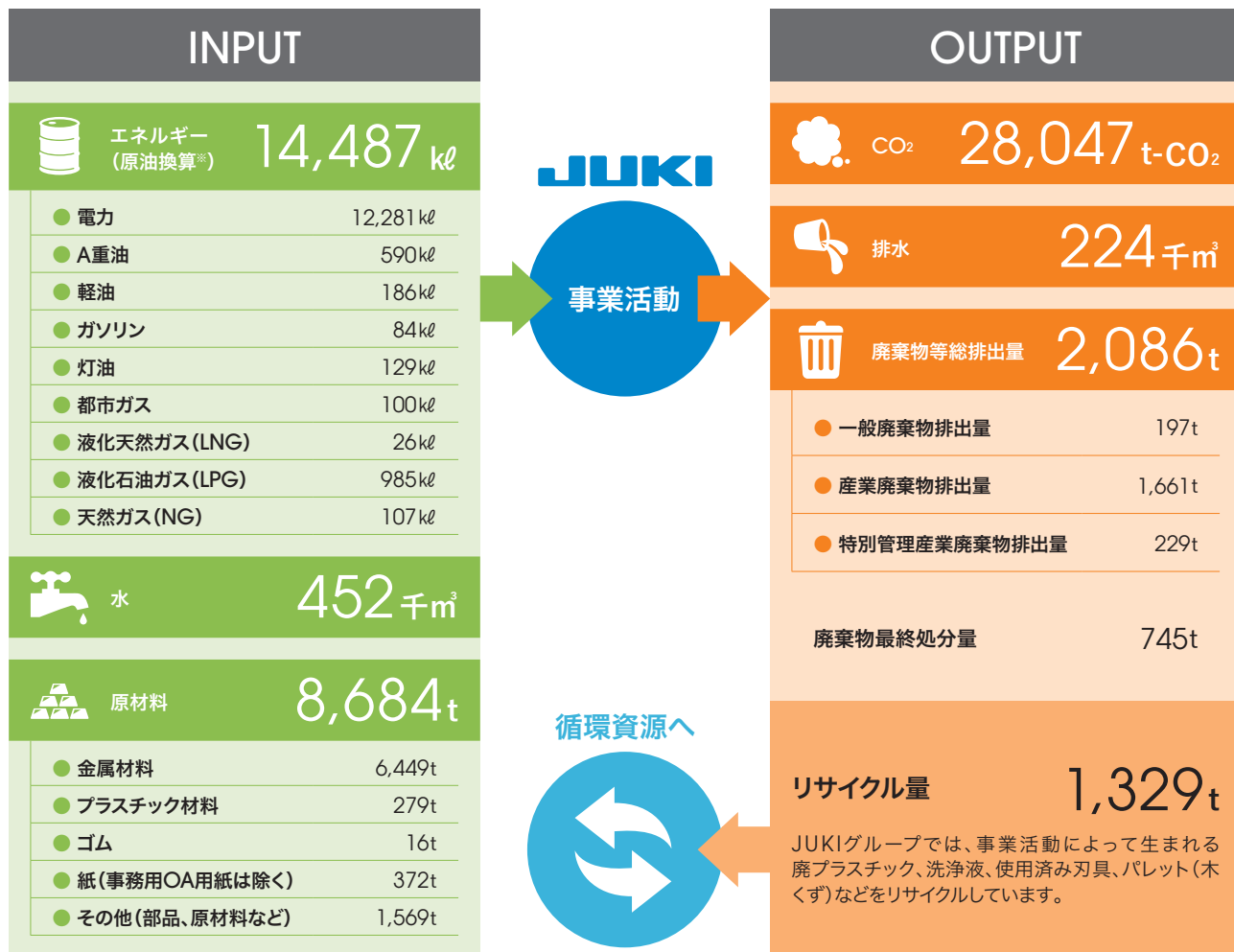
JUKIのSDGs

JUKIのSDGsの取り組み

環境負荷の低減

JUKIグループでは、事業に関連する環境負荷を明らかにして、環境パフォーマンスの改善を進めています。2020年度の環境パフォーマンスと取り組みの事例をご紹介します。

2020年度の環境パフォーマンス



- 電力: 工場やオフィスで使用する電力会社からの購買電力
- A重油: 塗装施設の乾燥炉など、設備を動かすために使用
- 軽油: トラックの燃料
- ガソリン: 社用車の燃料
- 灯油: 暖房用(温風機)の燃料
- 都市ガス: 給湯、調理、暖房、冷房などの燃料
- 液化天然ガス: ボイラーの燃料
- 液化石油ガス: 常用発電機の燃料
- 天然ガス: 食堂での調理や浴室給湯などの燃料
- 金属材料、プラスチック材料、ゴム: 部品の材料
- 紙: 輸送用ダンボール、製品の梱包、荷崩れ防止用及び製造工程での製品の打コン防止用

- CO₂: 電気や燃料の使用に伴い発生
- 一般廃棄物: 家庭や企業などから排出される廃棄物のうち、産業廃棄物以外のもの。ここでは事業活動の中で排出される生ごみなどの生活ごみや、紙ごみなどを含む
- 産業廃棄物: 工場などの事業活動に伴って排出される廃棄物のうち、法律で定められた20種類の廃棄物。鋳物に使用した廃砂、パレット(木くず)、切削油、開発製品の試験研究に使用した試作機などを含む
- 特別管理産業廃棄物: 産業廃棄物の中で、爆発性、毒性、感染性が高く、人の健康や生活環境に被害を生ずる恐れがあり、特に厳重な管理が必要なもの。古いコンデンサなどに含まれるPCBなど
- 最終処分: 廃棄物でリサイクルできないものを埋立処理すること
- リサイクル: 資源として再生して有効利用すること

このデータは、JUKIと国内・海外製造グループ会社の2020年度データについてまとめたものです。

※ 原油換算: 異なるエネルギー量を共通の尺度で比較するために発熱量を用いて、原油の量に換算したものです。



環境に配慮した製品の開発

JUKIでは、設計、製造、輸送、使用、リサイクル・廃棄までの各段階におけるライフサイクル全般にわたり、環境に配慮した製品づくりを行っています。騒音・振動の低減、長期使用性、消費電力の削減、リサイクル材料の活用など、環境に関する38項目のアセスメントを実施し、基準をクリアした製品を「JUKI ECO PRODUCTS」として認定しています。

2020年度認定ECO PRODUCTS

工業用ミシン



パターンシーマ PS-800 シリーズ

RoHS指令などの有害化学物質規制よりも更に厳しいグリーン調達ガイドラインをクリアしています。



入力機能付き電子サイクルマシン (全回転釜仕様) AMS-221F3020R シリーズ

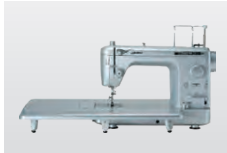
油・グリスなどの消耗材使用量を従来製品より15.7%削減しています。



セミドライヘッド2本針 本縫針送りソーイングシステム LH-4500C (Sタイプ) シリーズ

待機時の消費電力量を従来製品より50.8%削減しています。

家庭用ミシン



職業用直線本縫いミシン TL-2020PE PLATINUM EDITION

待機時消費電力を従来機種より2.7%削減しています。



家庭用ミシン HZL-UX8

RoHS指令などの有害化学物質規制よりも更に厳しいグリーン調達ガイドラインをクリアしています。

重機(廊坊)工業でのVOCsの削減

中国環境規制により、有機溶剤を使用している下塗りの廃止及び有機溶剤シーラーから水溶性シーラーへの変更に取り組みました。

有機溶剤に含まれるVOCsの排出量を1台当たり12.5g削減し、全体で40%の削減効果がありました。この活動により、LNGガス使用量の削減、生産性アップと使用エネルギーの削減にも繋がりました。

JUKIベトナムでの太陽光発電システムの設置

2020年12月JUKIベトナム第4工場に太陽光発電パネル2,200枚を設置し、CO₂排出量をJUKIベトナム全体で8%削減しました。JUKIベトナムの所属するTTC工業団地で初の太陽光発電設置工場となり、地域環境へ配慮した取り組み工場として、HBA(ホーチミン市工業団地商工会)より表彰されました。



HBAでの表彰式

第4工場の太陽光発電パネル

重機(上海)工業での高効率ボイラーの導入

「上海市ボイラー大気汚染物質排出基準」の新規設定に基づき、窒素酸化物低排出ボイラーを導入し、LNGガスステーションを再建しました。更新後の窒素酸化物排出量は30mg/m³以下(基準値:50mg/m³)に低減しました。またLNGのCO₂排出係数は、LPGより低いため、年間のCO₂排出量を77.5t削減しました。



LNGガス化ステーションの内部エリア写真



JUKIのSDGsの取り組み

SDGsとの関連



雇用機会の創出

縫製業は開発途上国における労働集約型の産業として、工業用ミシン事業を通じてその成長をサポートしています。単純労働集約型から人にやさしい労働環境への改善を、設備、システムを活用した工場のスマート化により実現します。

開発途上国の雇用機会の創出

1959年に縫製能率研究所を設立し、「材料・装置・人」の力を最大限に引き出し、最高のパフォーマンスを生み出すための生産管理、IE技術を用いたサポート活動を開始しました。

この活動をベースに開発途上国の輸出産業を育成し、国の豊かさと雇用の創出につながるODA(政府開発援助)事業に参画しています。カンボジア、ミャンマー、ガーナ、マダガスカルなど、政府機関と連携し、アパレルトレーニングセンターへの設備提供や教育訓練などを多くの国で実施しています。

目指す姿は、受講者自身が管理者などのキーマンに成長し、開発途上国における雇用の循環を生み出すことです。



安全でクリーンな、社会から求められる縫製工場へ

クリーンで疲労の少ない労働環境を実現するため、ミシンの稼働音や振動の抑制、操作性や安全性、集塵などにも配慮した製品開発を進めています。また、脱技能化や重労働を軽減する自動化装置への取り組みなどを通じて、人にやさしい労働環境を実現します。

また、発注元のアパレル企業からのSDGs視点での要求に応えるため、JUKIは生産性や品質だけでなく、労働環境や環境対応に関する提案を盛り込んだ工場コンサルを実施することにより、社会から求められる縫製工場へ進化するサポートを行います。



SDGsとの関連

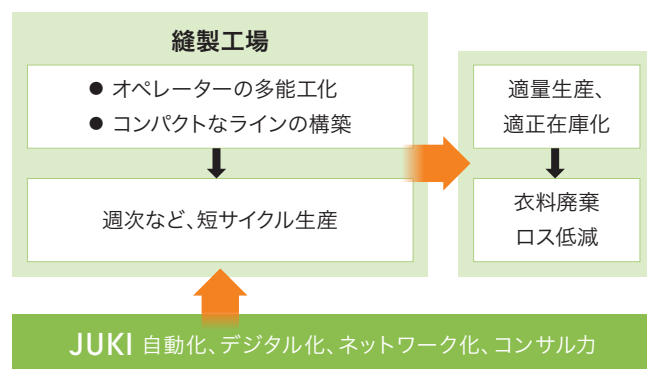


生産面からの衣料廃棄ロス削減への貢献

大量生産、大量在庫が結果的に衣料廃棄ロスにつながっています。縫製品の生産を支える立場からこの課題解決に取り組みます。

自動化、デジタル化、ネットワーク化、コンサルティング力で適量生産を実現

適量生産を実現するためにJUKIが取り組んでいるのが、自動化、デジタル化、ネットワーク化を駆使し、短サイクル生産で在庫量を適正化する、生産性が高くコンパクトなラインの構築です。デジタルミシンは縫い目の調整値を数タッチで変更できるため、縫製アイテムの変更に容易に対応できます。自動化することで省力化を実現し、ネットワークを活用したJaNetsシステムにより進捗や出来高管理を実現します。さらに、60余年の実績のあるコンサルティング力により、お客様個々に応じた衣料廃棄ロスを無くす生産の仕組みを構築します。





様々な人材の社会参加推進

世界には、開発途上国を中心に非識字の人がまだ多く存在しています。そのため仕事に就くことができず、貧困から抜け出せないスパイラルに陥っています。JUKIは、職業教育支援を通じた労働者人口増加と労働者の待遇改善などの実現に取り組みます。

社員の育成につながる点検サポートシステムの提供

開発途上国においては、識字不足のオペレーターも多いため、工業用マシンには、「音声ガイド機能」や「イラストや記号」を用いた説明を施しています。

また、縫製工場での日々のマシンの点検をスマートフォン用のアプリと、パソコン用のブラウザアプリで支援するシステムを無料公開しています。点検項目数は10点～20点で、写真付きでナビゲートするため、誰でも理解でき、点検を通じて、マシンの重要箇所も学べます。JUKIはこれらの取り組みにより、開発途上国における就労の促進を図っています。



点検や日々のメンテナンスを画像で説明

e-ラーニングメニューの開発と提供によるワーカーの育成

縫製工場の生産性・縫い品質の向上、メンテナンス技術などをお客様に提供するセミナーや集合教育などを継続実施しています。これらのメニューを「e-ラーニング」として提供する活動を2020年から開始しました。今後さらにメニューを増やし、手に職を付けられる活動として推進します。



第一弾として「縫製オペレーター育成コース」を開発

大田原工場におけるベトナム人の技能実習生の育成と本国での就職支援

ベトナム人を対象とした技能実習生約30名の受け入れを2019年から継続しています。工業用マシンのマザー工場である大田原工場で、加工・塗装・組立の技能を修得・習熟・熟達するサポートを行います。任期満了後、同じく工業用マシンの生産を担う「JUKIベトナム」への就職支援にも繋がります。JUKIは「外国人技能実習制度」の目的である、当該国の経済発展を担う「人づくり」に寄与する活動を今後も推進します。



技能実習生として働くベトナムの実習生

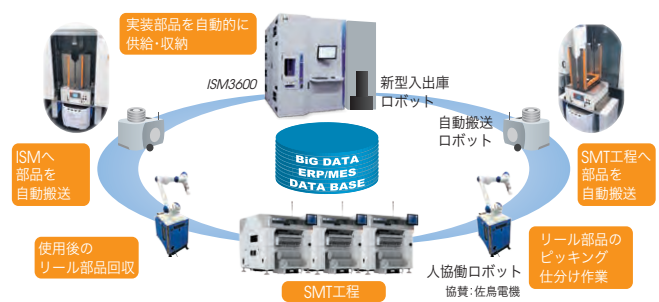


電子産業の生産性向上による技術革新支援

基板生産装置の総合メーカーとして、極小化するチップ部品や複雑異形化する部品への対応を通じて、電子・電化製品の回路基板の進化を支えています。IoT、AIなど未来社会をデザインする産業を技術革新で支えます。

実装工場における前後工程インフラの改良

IoTやAIなどの最新技術を取り入れ、人手を極力なくすスマート化工場の実現に取り組んでいます。特に人手が必要な実装ラインの前後工程を省力化するため、電子部品を保管・管理する「自動倉庫」や後工程の自動化、基幹システムとの連携を可能にするシステムの開発に取り組んでいます。人手をなくし、工場をスマート化することにより製品コストをより低減し、安価で品質の良い製品が開発途上国も含めた世界中で流通することにより、便利で快適な暮らしを実現します。





労働安全衛生の確保

新型コロナウイルス感染の防止に向けて、市場での不織布マスクや防護服不足への対応など、地域や社会のニーズに沿った事業に取り組んでいます。

社会のニーズに応える防護服の生産

新型コロナウイルス感染の拡大により逼迫している防護服の生産を経済産業省より受託しました。

通常は工業用ミシンの生産を行う大田原工場に「ソーイング部」を新設し、縫製業務を実施しています。本格的な縫製の経験がない中、お客様（縫製工場）より縫製工程の指導をいただき、社内においては組立工場のノウハウを生かし、品質チェック体制の構築や生産の見える化などを図りました。さらに、今後の事業化に向け設備投資を行い、スマートな生産の仕組みを構築しました。JUKIは社会からのニーズに対して、社内インフラを活用した取り組みを進めています。



大田原工場での防護服の生産

オフィスや工場の安全・衛生製品の提供

オフィスや工場で役立つ安全・衛生製品を提供しています。

様々な感染症を防止する無人警備・消毒ロボットや重労働作業をアシストするマッスルスーツ、JUKI生産工場生産を手掛けている消毒用スタンドやパーテーションなど、従業員が安全で健康的に働ける環境を整えるための様々な商品をご紹介します。

安全・安心な職場環境を整備することで、労働災害から社員を守り、各人の能力を最大限に発揮する環境を構築できます。



消毒スタンド(JUKI製)

マッスルスーツEvery(エブリイ)
※製造・販売元:(株)イノフィス

全国8地域の小中学校へ手作りマスクを寄贈

新型コロナウイルス感染症を防止するため、大田原工場にて子ども用の布製マスク、合計32,700枚を製作し、本社のある多摩市や国内7工場が所在する各地域の小中学校へ寄贈しました。子ども用のマスクが特に手に入らず、困窮しているとのニーズを受け、マスクを製作するプロジェクトを立ち上げました。普段は、ミシンの組み立て業務を行う社員約50人がJUKIの工業用ミシン、家庭用ミシンを使い、小中学生用のSMLの3サイズのマスクを製作しました。マスクは全員の子どもたちに贈られ、お礼のメッセージや感謝の声が本社をはじめ、各拠点に届きました。



寄贈した学校や生徒からの
お礼のメッセージ

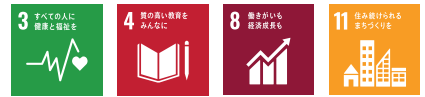
手作りマスクニーズへの素早い対応

新型コロナウイルスの感染防止のために、入手困難となった「マスク」を手作りするための作り方の動画を2020年2月にYouTubeに公開し、立体タイプとプリーツタイプの2種類の動画は23万回視聴されました。あわせて、マスクの型紙をホームページに公開しました。

また、マスク製作の講習会をオンラインにて6月に開催しました。リアル講習会と違いわかりづらい工程はカメラをズームにするなど、映像でも分かりやすく伝わるような工夫を行いました。



オンラインで開催した手作りマスク製作講習会



働きやすい環境整備

グローバルに事業を展開する企業として、国籍・人種・性別・年齢を超えて「雇用と成長」の機会を提供し、時代の変化に合わせた働きやすい環境の整備に取り組んでいます。

JUKIグループ社員の行動原則の制定

新型コロナウイルス感染症のパンデミック対応のため、世界中で規制緩和と経済復興への対策が進められている中、JUKIでは、社員一人ひとりの感染防止や事務所閉鎖などを引き起こすクラスター発生を防止し、「命と経済活動」を両立させるための行動原則を2020年6月1日に制定しました。テレワークやスライドワークなど、社員の命と健康を守る働き方を徹底して取り組んでいます。

JUKIグループ社員の行動原則 ～ニューノーマル・プリンシプル～

I 社会生活原則(個人として)

社員ひとり一人が日常生活において「新しい生活様式」を取り入れ、人にうつさない。うつさせないための十分な感染防止策を実施する。

- (1) 衛生管理徹底(うがい・手洗い・マスク着用の励行)
- (2) “3密”回避徹底(クラスタープレイスへの立寄り自粛)
3密対策が講じられていない場所での集会、懇親会は禁止。
- (3) ソーシャルディスタンス徹底(家庭内・外出時の人との距離注意)

II 企業活動原則(職業人として)

- (1) 衛生管理徹底
 - a) うがい・手洗い・マスク着用の励行
 - b) 出勤時&帰宅時の体温測定励行(JUKIの判断基準=37℃以上)
発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅療養。
 - c) 事務所・工場の換気、除菌徹底

テレワークのスムーズな実現

JUKIグループ全体において多様な働き方を加速させるため、「JUKI Global Platform(略称JGP)」と称したITインフラの整備を2019年末までに完了しました。世界的なパンデミックによりそのニーズが急務となりましたが、セキュアなITインフラ環境のもと、Microsoft Teamsなどを活用し、2020年4月から本格的なテレワークやリモート会議を実現しました。



リモート会議

ダイバーシティの推進

性別・年齢・国籍にかかわらず、一人ひとりの多様性を活かし、多様な働き方を受け入れるダイバーシティマネジメントを推進しています。「女性活躍推進」「グローバル人材配置」「専門社員の活躍推進」の3つを柱に、性別・年齢・国籍にかかわらず、一人ひとりの多様性を活かし、組織パフォーマンスを最大化させることを目指しています。

2021年度より新たな目標として、2026年までに管理職の女性割合を10%に向上させるを掲げ、職務経験・職務拡大などを通じて活躍の場を広げる取り組みを行っています。

属性の多様性

性別 年齢 国籍

働き方の多様性

勤務地 職種 勤務時間

多様な人材、多様な働き方を受け入れ
その能力を発揮できる環境をつくる

2021年度からの目標

管理職の女性割合

2021年 **6%** → 2026年までに **10%**



グローバルな人材育成

人が企業発展の要であると捉え、現場力強化のための教育支援やグローバル化を進めるための国内・海外人材交流の推進を図っています。

教育面においては、階層別・機能別教育や専門分野別教育などを通して人材育成を行い、コロナ渦でもリモート研修会の実施やeラーニングを活用した若手社員への教育などを実施しています。



若手社員を対象としたオンライン社員研修「Schoo」の画面

JUKIのSDGsの取り組み

ガバナンスの強化

お取引先や投資家・株主の皆様とのコミュニケーションを図るとともに、コーポレート・ガバナンス体制の充実、コンプライアンスの徹底およびリスクマネジメントの強化に努め、透明性の高い経営を目指します。

コーポレート・ガバナンス

JUKIは、経営の健全性・効率性を確保する観点から、また、ステークホルダーの信頼にお応えするため、コーポレート・ガバナンス体制の適切な維持・運用を最重要課題の一つと位置付け、その整備と充実に努めています。また、適時かつ正確な情報公開を通して、経営の透明性を高めています。

今年度より、代表取締役会長CEO（最高経営責任者）および代表取締役社長COO（最高執行責任者）を設置し、代表取締役会長CEOが取締役会の議長をつとめることで取締役会による経営・業務執行に対する監督・監視機能を強化する体制とし、コーポレート・ガバナンス体制の強化を図っています。

取締役は5名のうち、2名を社外取締役とすることで、取締役および取締役会の経営監視機能を高め、意見を経営に取り入れる体制を強化しています。監査役は3名のうち、1名を女性することで、多様性を確保し、多角的な視点での監査を強化しています。

JUKIの取締役会は、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を逐次監督しています。また、執行役員制度および幹部職制度（コーポレートオフィサー[※]）を導入し、業務執行の円滑化と責任の明確化を図っています。

また、取締役会の下に経営戦略会議を組織し、当社およびグループ会社からなる企業集団に関して、取締役をはじめ担当付執行役員、担当コーポレートオフィサーや担当部門責任者も出席し、経営に関する基本方針や戦略などについて様々な角度から審議することで、より適切な意思決定および業務の執行が可能となる体制をとっています。

内部監査の組織としては、グループ監査部を設置し、当社各部門およびグループ会社に対する業務監査を行っています。また監査役

監査は、監査役会が定めた監査方針や業務分担などに従い、グループ監査部および会計監査人と相互連携を取りながら実施しています。

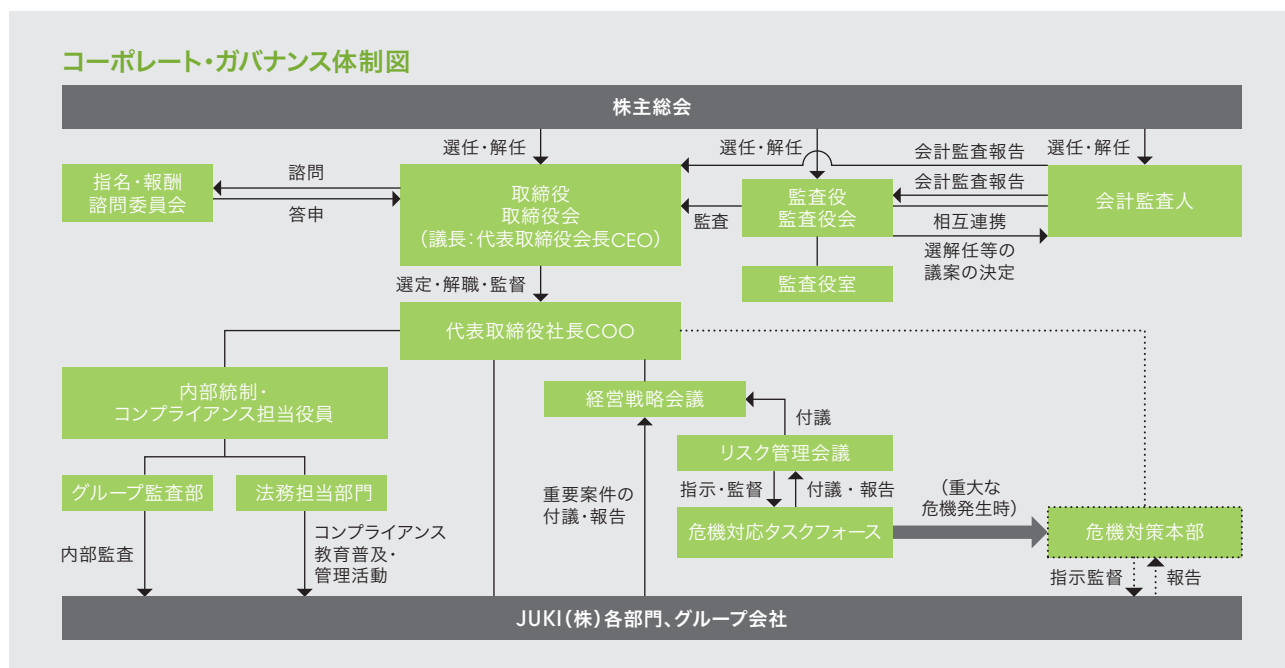
※コーポレートオフィサー：役付執行役員を除く執行役員に相当する幹部職

コンプライアンス

JUKIグループは、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある企業グループであり続けることを目指して、コンプライアンスを重要な経営基盤と位置付けています。JUKIの従業員はもちろんのこと、グループ会社の役員および従業員は、法令順守や良識を持った行動などについて解説されている「JUKIグループ社員行動規範「10カ条」」に則って行動するよう、徹底しています。従業員からの相談・疑問などに対しては、JUKIおよびグループ会社に相談窓口を設置して迅速に対応しています。また、コンプライアンスに関わる重要なリスクについては、リスク管理会議において管理しています。

リスクマネジメント

JUKIではグループのリスク全般に適切に対応するため、戦略リスクを扱う経営戦略会議や事業継続にかかわる危機対策本部とともに、執行役員と事業部門・グループ会社責任者で構成するリスク管理会議を軸にリスクマネジメントシステムを構築・運営しています。政治経済情勢をはじめ品質保証、環境規制、情報セキュリティ、安全保障貿易、コンプライアンス、労働安全衛生など変化するリスク環境に対応するため、年度ごとの方針見直しや四半期ごとのリスク評価・モニタリングを行い、重大なリスク発生の場合も含めてリスク対応の内容を取締役会において報告・審議し、継続的な改善を図っています。



※コーポレートガバナンス報告書で詳細を公開しています。 <https://www2.tse.or.jp/disc/64400/140120210209459014.pdf>



役員紹介 (2021年4月1日現在)

取締役



清原 晃

代表取締役会長 CEO
兼 JUKIオートメーションシステムズ(株)
代表取締役会長 CEO



内梨 晋介

代表取締役社長 COO
「グローバル コ・オペレートセンター(経営企画部、財務経理部、人事総務部、業務プロセス革新部)担当」兼「秘書室担当」兼 JUKIオートメーションシステムズ(株)取締役



永嶋 弘和

取締役専務執行役員
産業機器&システムユニット産業装置カンパニー長
兼 JUKIオートメーションシステムズ(株)
代表取締役社長 COO



長崎 和三

社外取締役
(独立役員)



堀 裕

社外取締役
(独立役員)

監査役



鈴木 正彦

常勤監査役



田中 昌利

社外監査役



渡辺 淳子

社外監査役
(独立役員)

常務執行役員



後藤 博文
常務執行役員



阿部 裕
常務執行役員



石橋 次郎
常務執行役員



二瓶 勝美
常務執行役員



松本 潔
常務執行役員



安西 洋
常務執行役員

コーポレートオフィサー



新田 実
コーポレートオフィサー



貫井 邦夫
コーポレートオフィサー



中尾 憲二
コーポレートオフィサー



植草 敬一
コーポレートオフィサー



鈴木 将義
コーポレートオフィサー



鈴木 康之
コーポレートオフィサー



山中 敏幸
コーポレートオフィサー



南 大造
コーポレートオフィサー



野崎 修一
コーポレートオフィサー



塚野 朗
コーポレートオフィサー

財務データ

2年間の主要財務データ(連結)

(単位：百万円)

	2019年度 2019年12月期	2020年度 2020年12月期
損益状況 (会計年度)		
売上高	99,169	70,401
(海外売上高比率)	82.9%	79.1%
売上総利益	28,869	15,310
営業利益	3,838	△4,469
経常利益	2,941	△3,957
親会社株主に帰属する当期純利益	1,763	△4,688
設備投資額	2,907	2,176
減価償却費	3,063	3,162
研究開発費	5,398	4,608
財政状態 (事業年度末)		
総資産	114,715	110,230
純資産	37,752	31,368
自己資本	37,037	31,033
財務指標		
自己資本比率	32.3%	28.2%
自己資本当期純利益率	4.8%	△13.8%
キャッシュ・フロー状況 (会計年度)		
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,054	8,509
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,430	△2,698
フリーキャッシュ・フロー	△376	5,811
財務活動によるキャッシュ・フロー	△810	2,034
1株当たり情報		
1株当たり当期純利益 (EPS)	60.20円	△160.04円
1株当たり配当金 (DPS)	25円	20円
1株当たり純資産額 (BPS)	1,264.28円	1,059.32円
非財務データ		
従業員	5,762人	5,287人
海外従業員比率	57.1%	54.7%

連結貸借対照表

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	2019年度 2019年12月期	2020年度 2020年12月期
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,987	13,831
受取手形及び売掛金	30,461	23,326
商品及び製品	29,299	26,365
仕掛品	3,798	3,115
原材料及び貯蔵品	8,363	7,228
為替予約	—	67
その他	2,684	2,585
貸倒引当金	△ 383	△ 530
流動資産合計	80,210	75,990
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,514	11,213
機械装置及び運搬具（純額）	3,610	3,367
工具、器具及び備品（純額）	1,079	982
土地	6,362	6,322
リース資産（純額）	381	332
建設仮勘定	329	202
その他	878	1,063
有形固定資産合計	24,154	23,484
無形固定資産	2,096	1,922
投資その他の資産		
投資有価証券	3,888	3,921
長期貸付金	0	110
長期前払費用	226	295
繰延税金資産	2,356	2,439
退職給付に係る資産	1,133	1,333
その他	2,006	2,070
貸倒引当金	△ 1,357	△ 1,338
投資その他の資産合計	8,254	8,833
固定資産合計	34,505	34,240
資産合計	114,715	110,230

	2019年度 2019年12月期	2020年度 2020年12月期
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,120	7,124
電子記録債務	2,877	3,004
短期借入金	37,211	34,053
リース債務	123	108
未払金	1,239	811
未払費用	3,279	2,755
未払法人税等	452	337
賞与引当金	28	29
設備関係支払手形	527	76
為替予約	240	—
その他	1,667	1,651
流動負債合計	54,769	49,952
固定負債		
長期借入金	15,400	21,989
リース債務	264	227
役員退職慰労引当金	61	63
退職給付に係る負債	5,251	5,253
その他	1,216	1,375
固定負債合計	22,194	28,909
負債合計	76,963	78,861
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,044	18,044
資本剰余金	2,035	1,990
利益剰余金	20,494	15,073
自己株式	△ 607	△ 607
株主資本合計	39,966	34,501
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	468	478
為替換算調整勘定	△ 3,437	△ 4,063
退職給付に係る調整累計額	40	116
その他の包括利益累計額合計	△ 2,929	△ 3,468
非支配株主持分	714	335
純資産合計	37,752	31,368
負債純資産合計	114,715	110,230

財務データ

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2019年度 2019年12月期	2020年度 2020年12月期
売上高	99,169	70,401
売上原価	70,300	55,090
売上総利益	28,869	15,310
販売費及び一般管理費	25,030	19,780
営業利益又は営業損失 (△)	3,838	△ 4,469
営業外収益		
受取利息	45	40
受取配当金	154	127
受取手数料	195	158
貸倒引当金戻入益	79	60
助成金収入	44	1,301
その他	331	288
営業外収益合計	852	1,976
営業外費用		
支払利息	796	837
持分法による投資損失	—	77
為替差損	874	453
その他	77	94
営業外費用合計	1,749	1,464
経常利益又は経常損失 (△)	2,941	△ 3,957
特別利益		
固定資産売却益	11	34
投資有価証券売却益	—	23
特別利益合計	11	57
特別損失		
固定資産除売却損	16	176
出資金評価損	5	—
投資有価証券評価損	—	147
特別退職金	—	243
特別損失合計	22	567
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失 (△)	2,930	△ 4,466
法人税、住民税及び事業税	977	571
法人税等調整額	164	△ 257
法人税等合計	1,141	313
当期純利益又は当期純損失 (△)	1,789	△ 4,780
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	25	△ 91
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,763	△ 4,688

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2019年度 2019年12月期	2020年度 2020年12月期
当期純利益又は当期純損失 (△)	1,789	△ 4,780
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	10
為替換算調整勘定	△ 474	△ 628
退職給付に係る調整額	79	77
その他の包括利益合計	△ 385	△ 541
包括利益	1,403	△ 5,321
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,386	△ 5,227
非支配株主に係る包括利益	17	△ 93

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2019年度 2019年12月期	2020年度 2020年12月期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失 (△)	2,930	△ 4,466
減価償却費	3,063	3,162
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△ 38	143
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△ 9	2
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△ 54	108
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	4	△ 195
受取利息及び受取配当金	△ 200	△ 167
支払利息	796	837
為替差損益 (△は益)	3	4
有形及び無形固定資産除売却損益 (△は益)	5	141
売上債権の増減額 (△は増加)	2,578	6,334
たな卸資産の増減額 (△は増加)	1,361	3,762
仕入債務の増減額 (△は減少)	△ 6,159	162
割引手形の増減額 (△は減少)	12	△ 12
その他	1,097	△ 7
小計	5,392	9,810
利息及び配当金の受取額	201	167
利息の支払額	△ 799	△ 839
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 1,740	△ 629
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,054	8,509
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 2,262	△ 2,586
有形及び無形固定資産の売却による収入	48	158
投資有価証券の取得による支出	△ 1,234	△ 200
貸付金の回収による収入	0	8
その他	17	△ 78
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,430	△ 2,698
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	838	△ 3,020
長期借入れによる収入	8,690	15,849
長期借入金の返済による支出	△ 8,845	△ 9,028
自己株式の取得による支出	△ 0	△ 0
配当金の支払額	△ 877	△ 730
セールアンド割賦バック債務返済による支出	△ 1	—
その他	△ 614	△ 1,036
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 810	2,034
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 138	△ 1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 1,324	7,844
現金及び現金同等物の期首残高	7,301	5,976
現金及び現金同等物の期末残高	5,976	13,820

沿革

“日本から世界185カ国へ”のグローバル化の歩みをまとめました。
 また、創業より、「技術開発型企业」としてお客様のニーズを捉え、
 一貫して取り組んできたイノベティブな製品の歴史をご紹介します。

1940s

1950s

1960s

1970s

1980s

東京重機工業株式会社

1938
 東京都の機械業者
 が出資「東京重機
 製造工業組合」
 発足



1945
 ミシン製造業転換
 への許可がおりる

1947
 家庭用ミシン
 第1号機完成
 (HA-1)



1953
 工業用ミシンに
 参入、第1号機を
 発売(DDW-II)



1957
 単軸回転天秤発明
 恩賜発明賞を受賞



1961
 電子計算機周辺
 機器の製造販売を
 開始



1964
 東証第一部に
 上場

1970
 JUKI初の海外
 販売会社を香港に
 設立
 (現・JUKI
 (HONG KONG)
 LTD.)



1971
 栃木県大田原市に
 工業用ミシンの
 製造工場
 「大田原工場」竣工



1972
 西ドイツに
 ヨーロッパの拠点
 となる販売会社を
 設立
 (JUKI (EUROPE)
 GMBH)



1974
 アメリカに販売
 会社を設立
 (現・JUKI
 AMERICA, INC.)



1981
 工業用ミシン本部
 がデミング賞受賞
 (実施賞事業部賞)



1982
 JUKI香港に
 シンガポール
 事務所を開設



1987
 SMTの分野に参入
 (産業装置事業)
 1号機の製造販売
 を開始
 (KP-350)



1988
 JUKI株式会社
 社名変更



家庭用ミシン

1947
 HA-1



1953
 ロータリックス
 HW-62B



1968
 2色同時
 編込装置付編機
 K-811



1977
 フルフル
 HZL-11



1978
 電子フローラ
 HZL-550



1985
 ザ・ミシン
 HZL-7000



1990
 シュプール90
 TL-90



1993
 アローネ
 HZL-008



1997
 jupre
 HZL-009



2001
 ジュレープ
 HZL-010



工業用ミシン

1953
 本縫ミシン
 DDW-II型



1964
 インターロックミシン
 MO-357
 オーバーロックミシン
 MO-352



1969
 本縫自動糸切ミシン
 DDL-555-II



1979
 本縫ボタン付ミシン
 LK-982



1979
 自動玉縁縫機
 APW-116



1986
 ジューキ
 ハンガーシステム
 JHS-201



1987
 クイックレスポンス
 ソーイングシステム
 QRS



1996
 ほつれ防止単環
 ボタン付
 MB-377



1996
 ドライヘッド本縫
 自動糸切ミシン
 DDL-5700N-7



電子・産業装置

1964
 カード穿孔機
 H-163



1976
 ラインプリンタ
 5240



1982
 データエントリー装置、
 漢字キーツフロッピー
 1860



1988
 エントリー機
 (導入用)
 KP-350



1997
 高速チップマウンタ
 KE-750
 高速汎用マウンタ
 KE-760



2000
 高速チップマウンタ
 KE-2010
 高速汎用マウンタ
 KE-2020



1990s

2000s

2010s

2020s

JUKI株式会社

1990
JUKI初の海外工場
を中国上海市に
合併で設立
(家庭用ミシン
製造工場・上海
重機ミシン)



1995
シンガポールに
アジア販売を統括
する会社を設立
(現・JUKI
SINGAPORE
PTE. LTD.)



1995
中国に工業用
ミシンの部品製造・
調達を行う会社を
設立
(現・重機(寧波)
精密機械)



2000
全額出資の工業用
ミシンの製造工場
を上海に設立
(重機(上海)工業)



2005
ポーランドに
ヨーロッパの
販売統括拠点を
設立
(JUKI CENTRAL
EUROPE SP.ZO.O.)



2009
多摩市鶴牧に建設
した新社屋へ移転
(12月)



2013
産業装置部門を
独立させJUKI
オートメーション
システムズを設立

2014
JUKIオートメー
ションシステムズ
とソニーイーエム
シーエスの実装
機器事業部門を
統合



2019
ESSEGI
AUTOMATION
S.r.l.へ出資

2020
重機(上海)工業と
重機(寧波)精密
機械を合併
(存続会社:
重機(上海)工業)

2020
新興重機工業
有限公司の社名を
「重機(廊坊)工業」
に変更
河北省廊坊経済
技術開発区に
新工場建設

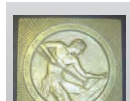


1994
中国に販売会社を
設立
(東京重機国際貿易
(上海))

1995
工業用ミシンの
製造工場を合併で
中国廊坊に設立
(新興重機工業)



1997
工業用ミシンの
「下糸自動供給
装置」の開発が
機械振興協会賞を
受賞



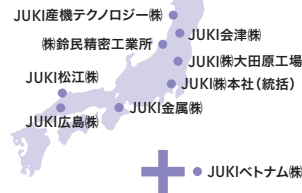
2001
中国を統括する
全額出資の子会社
を設立
(重機(中国)投資)



1995
ベトナムに工業用
ミシンの部品工場
を設立
(現・JUKI
(VIETNAM)
CO.,LTD.)



2015
日本とベトナムに
ある製造工場
ものづくり力を
結集させ、グループ
事業を開始



2003
家庭用
コンピューターミシン
HZL-E60



2005
ロックミシン
RS-10



2009
エクシード
キルトスペシャル
HZL-F600JP



2013
ロックミシン
シュルル
MO-1000ML



2015
キルト専用ミシン
フレームタイプ
TL-2200QVP



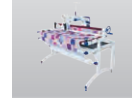
2017
HY-SPEC
SL-700EX



2018
家庭用
コンピューターミシン
Kirei HZL-NX7



2018
ロングアームミシン
J-350QVP



2019
ロックミシン
MO-114DN



2021
家庭用
コンピューターミシン
Kirei HZL-UX8



2000
ドライヘッド電子
単環ボタン付
MB-1800S



2003
ドライヘッド
オーバーロック
MO-6100D



2004
単環根巻き
ボタン付
AMB-289



2007
斜めポケット
自動玉縁縫機
APW-896



2016
デジタル本縫
自動糸切りミシン
DDL-9000C



2017
1本針
CNCミシン
AMS-251



2018
自動糸切り付き
本縫ミシン
(音声ガイダンス)
DDL-8000A



2019
縫製管理
システムソフト
JaNets



2019
2本針本縫針送り
ソーイングシステム
LH-4500C



2020
自動機
ボタンシーマ
PS-800



2008
高速モジュラー
マウンタ
FX-3



2011
後工程マウンタ
マルチタスク
プラットフォーム
JM-10



2013
高速コンパクト
モジュラーマウンタ
RX-7



2014
自動倉庫
インテリジェント
ストレージ
マネジメントシステム
ISM2000



2017
高速スマート
モジュラーマウンタ
RS-1



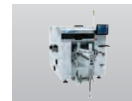
2018
3D基板
外観検査機
RV-2-3DH



2018
実装統合システム
JaNets



2018
マルチタスク
プラットフォーム
JM-100



2019
高速スマート
モジュラーマウンタ
RS-1R



2020
3D基板
外観検査機
RV-2-3DHL



データセクション

JUKIのグローバル拠点

(2021年1月1日現在)



① ④ ① ② ① ② JUKI株
JUKIオートメーションシステムズ株
JUKI販売株
JUKIプロサーブ株
JUKI家庭製品お客様センター株

④ ③ JUKI株大田原工場

① ② JUKI産機テクノロジー株

⑦ ⑤ JUKI松江株

⑧ ⑥ 重機(上海)工業有

⑨ 重機(廊坊)工業有

製造拠点

日本

① JUKI産機テクノロジー株	秋田県横手市	チップマウンタ等の製造、 グループ事業関連のユニット・部品製造
② JUKI会津株	福島県喜多方市	ロストワックス・MIM 製法部品の製造
③ 株鈴民精密工業所	新潟県長岡市	グループ事業関連の部品製造 工業用ミシン等の部品製造
④ JUKI株大田原工場	栃木県大田原市	工業用ミシンの製造 グループ事業関連の部品製造
⑤ JUKI金属株	三重県大台町	銃鉄铸件等の製造
⑥ JUKI広島株	広島県三次市	グループ事業関連の部品製造 金型・プレス加工部品等の製造
⑦ JUKI松江株	島根県松江市	グループ事業関連の部品製造 工業用ミシン等の製造

海外

⑧ 重機(上海)工業有	中国・上海	工業用ミシン等の製造 チップマウンタのフィードの製造
⑨ 重機(廊坊)工業有	中国・河北省	工業用ミシン等の製造
⑩ 上海重機ミシン有	中国・上海	家庭用ミシン等の製造

⑪ JUKIベトナム株	ベトナム・ホーチミン	工業用ミシン等の製造、 ロストワックス部品の製造
⑫ エセジオートメーション有	イタリア・ヴィチェンツァ	グループ事業関連の部品製造 自動倉庫の製造

開発拠点

日本

① JUKI株	東京都多摩市	工業用ミシン、家庭用ミシン、チップ マウンタ等の製品開発、システム開発
② JUKI産機テクノロジー株	秋田県横手市	チップマウンタ、電子機器等の開発、 グループ事業関連の開発
③ JUKI株大田原工場	栃木県大田原市	工業用ミシンの開発
④ JUKIオートメーションシステムズ株	東京都多摩市	チップマウンタ等の開発
⑤ JUKI松江株	島根県松江市	工業用ミシンの開発

海外

⑥ 重機(上海)工業有	中国・上海	工業用ミシンの開発
⑦ JUKIベトナム株	ベトナム・ホーチミン	工業用ミシンの開発
⑧ JUKIセントラルヨーロッパ株	ポーランド・ワルシャワ	工業用ミシンの開発
⑨ JUKIアメリカ株	アメリカ・フロリダ	工業用ミシンの開発
⑩ エセジオートメーション有	イタリア・ヴィチェンツァ	自動倉庫の開発



GLOBAL



JAPAN



10 上海重機ミシン(有) 11 7 JUKIベトナム株 3 4 重機(中国)投資(有) 6 JUKIシンガポール株 8 12 JUKIセントラルヨーロッパ株 9 14 JUKIアメリカ株 15 JUKIオートメーションシステムズINC.

販売拠点

日本		
1	JUKIオートメーションシステムズ株	東京都多摩市 チップマウンタ等の販売
2	JUKI販売株	東京都多摩市 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売

海外		
3	重機(中国)投資(有)	中国・上海 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売 持株会社・中国拠点統括
4	東京重機国際貿易(上海)有	中国・上海 チップマウンタ等の販売
5	JUKI香港株	中国・香港 工業用ミシン等の販売
6	JUKIシンガポール株	シンガポール・バンデミア 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売 (主要拠点：インドネシア、カンボジア、ミャンマー他6カ国)
7	JUKIタイランド株	タイ・バンコク 工業用ミシン等の販売
8	JUKIマシナリー・バンガラデシュ株	バンガラデシュ・ダッカ 工業用ミシン等の販売
9	JUKIマシナリー・ベトナム株	ベトナム・ホーチミン 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売
10	JUKIインドニア株	インド・バンガロール 工業用ミシン、チップマウンタ等の販売
11	JUKISMT アジア株	タイ・チョンブリ チップマウンタ等の販売
12	JUKIセントラルヨーロッパ株	ポーランド・ワルシャワ 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売 (その他拠点：トルコ、ロシア、ペラルーシ)
13	JUKIイタリア株	イタリア・ミラノ 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売

14	JUKIアメリカ株	アメリカ・フロリダ 工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売 (その他拠点：メキシコ、ペルー、コロンビア)
15	JUKIオートメーションシステムズINC.	アメリカ・ノースカロライナ チップマウンタ等の販売
16	JUKIオートメーションシステムズGmbH.	ドイツ・ニュルンベルク チップマウンタ等の販売
17	エセジオオートメーション(有)	イタリア・ヴィチェンツァ 自動倉庫の販売

● JUKI直営の支店／営業所／サービスセンター 等
● 主な代理店

その他拠点

日本		
1	JUKIプロサーブ株	東京都多摩市 ビル管理・リフォーム・印刷他サービス
2	JUKI家庭製品お客様センター株	東京都多摩市 家庭用ミシンのサービス対応

主要拠点数

	日本	海外	合計
● 製造	7	5	12
● 開発	5	5	10
● 販売	2	15	17
● その他	2	0	2

データセクション

会社概要および株式情報

(2021年1月1日現在)

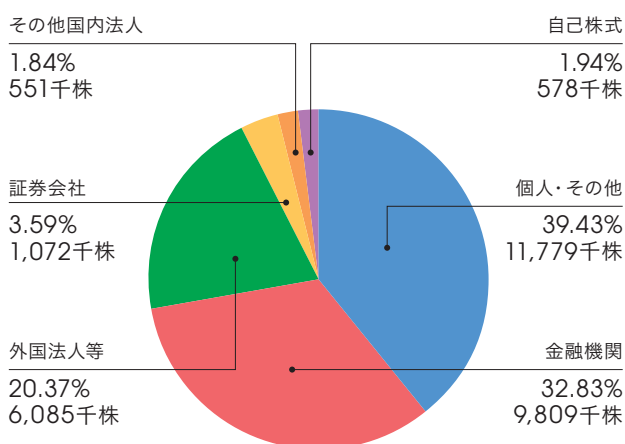
会社データ

商号	JUKI株式会社
創立	1938年12月15日
代表者	代表取締役会長 CEO 清原 晃 代表取締役社長 COO 内梨 晋介
資本金	180億4,471万円
主要事業所	本社： 〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1 TEL 042-357-2211 大田原工場： 〒324-0011 栃木県大田原市北金丸1863 TEL 0287-23-5111
決算期	12月31日
定時株主総会	3月
従業員	5,287名(連結)、909名(単体)
連結子会社	25社

株式の状況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	29,874,179株
株主数	12,548名
上場証券取引所	東京証券取引所 第一部(貸借銘柄)
証券コード	6440
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

所有者別株式分布状況



編集方針

JUKIコーポレートレポート2021は、会社案内とSDGsの取り組みを1冊に統合した報告書です。今回発行するレポートでは、当社グループの事業や価値創造について、お客様や株主・投資家をはじめステークホルダーの皆様にご理解いただくため、内容を拡充してお届けします。

見通しに関する注意事項

本レポートに記載されている、JUKI株式会社および連結子会社の計画、目標、戦略などは、編集時点における見通しであり、これらは、入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。従って、これらの業績見通しは、将来の業績を保証するものではなく、様々な重要な要素により、大きく異なる結果になることがあります。

Mind & Technology

JUKI

JUKI株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1

TEL 042-357-2211

<https://www.juki.co.jp>

